大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可　（毎月一回一日發行）　昭和五年六月三十日　印刷納本　同五年七月一日發行　第八卷第六號

婦人運動

七月號

第8卷　第6號

職業婦人社發行

良書の刊行
書齋の美化
美しき伴侶
斯界の騎士

第一書房

東京麴町區一番町五
振替東京六四二二三

象徴の烏賊

生田春月著

此詩集を　虔んで著者の靈前に捧ぐ

象徴の烏賊はおそらく私の詩人としての最高の境地を示したものだといふ自信がありま す。若し全詩集の出るやうな場合にも、當分の間はそれに入れないで、全く別なものとして置きたいと思ひます。（著者）

華やかな、嚴肅な緊張感に燃える人生のクライマックス！瀬戸内海のあかつきに身を投げた生田春月君よ！私は、あなたの死を特に美しく思つてゐます。一つの仕事を果して、何の心のこりもなく、自ら死の中に飛躍してゆく、斯くしてこそ詩人の美しさは永しへにドラマチツクです。あなたのやうな詩情に生きる死こそ、沈鬱な歡喜ではあるが、私は讃美せずには居られないのです！情熱なくして何事も成し得ない私が、幸ひなる情熱をこめて、此の最後の詩集を、心からあなたの靈前に捧げ得るのは偏に此の感激に依るのです。

第一書房主　長谷川巳之吉　敬白

四六判　本文上質紙　挿繪三枚　特製美本　**定價二圓**

佛蘭西短篇集　**詩人のナプキン**　堀口大學譯　定價一圓八十錢

アナトオル・フランス　**エピキユウルの園**　草野貞之譯　定價二圓

ジユウル・ルナアル　**葡萄畑の葡萄作り**　岸田國士譯　定價一圓八十錢

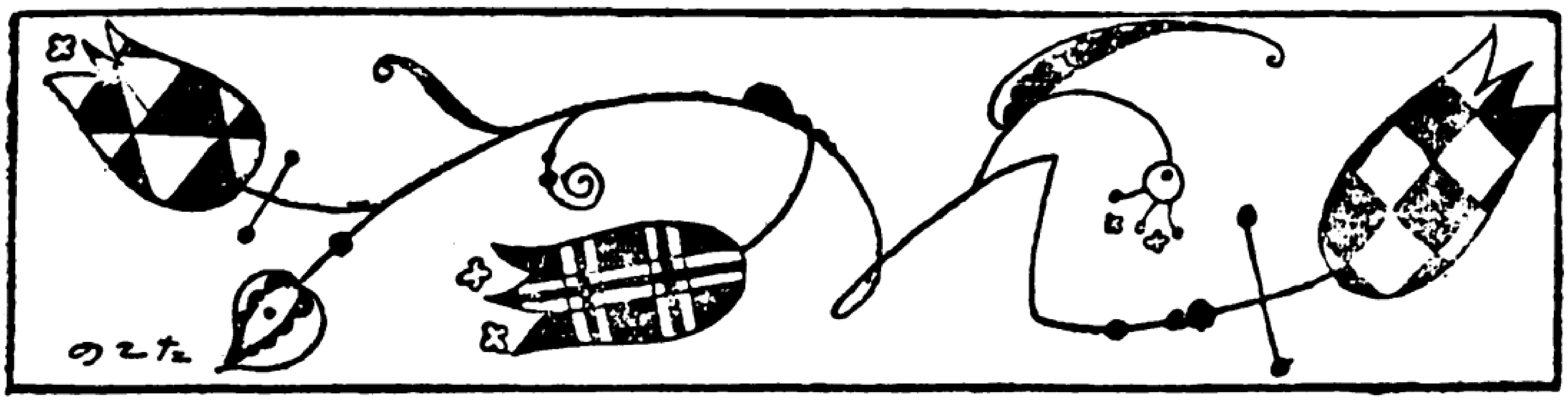
グウルモン語錄　**沙上の足跡**　堀口大學譯　定價一圓八十錢

フエレンツ・モルナアル　**戲曲　男の流行**　鈴木善太郎譯　近刊

室生犀星拾遺抒情詩集　**鳥雀集**　近刊

飯田安譯　**ノヴーリス語錄**　近刊

エドガア・ポオ　**メエルストロムの旋渦**　佐々木直次郎譯　近刊



婦人運動（七月號）

母子保護の法令と施設の急を叫ぶ

過日の新聞が報道してゐる東京世田ケ谷の貰ひ兒七人殺し事件は、その犯行が慘虐な、あまりに慘虐な點で世間の視聽を集めてゐます。つひ先頃の板橋細民部落の貰子八十幾人殺し事件といひ、荒川堤の胎兒死體遺棄事件といひ、墮胎犯の激增といひ、この種の犯罪がこの頃急激に殖へてゐることは何人も面を伏せたい程氣持を暗くせずにはゐられない事であります。

當局者はそれに關していつも簡單に風紀の○○○○○○を云々するばかりでありますが、今日のこの奈落の底にゐるやうな不景氣を前にして、さうした形式的な辭令で片附けてすましてゐられませうか。現に、今度の事件の世にも悲慘な運命を辿つた七人の子供の母親達は、一二の例外を除けば、失業者の妻、姙娠中に内緣の夫に捨てられたもの、子供を抱へては生活に窮する女給や、仲居だといふではありませんか。勿論犯罪者の罪は、憎んでもあまりがありますが、貰ふ方でも遣る方でも、生活苦といふ大きな問題を背景にしてゐる以上、この根本問題に觸れることなしに徹底的な解決の道を求めようとすることは望み得ないことでありませう。七人の嬰兒の母親がいづれも警察で變り果てた愛し兒の可哀想な姿をみて、訊問に答へる言葉さへ咽喉につかへて出ない程に悲しみに泣き伏たさうです。經濟上の事情が許しさへすれば、そして私生兒の母といふ烙印を社會から捺されていつまでも日蔭者の慨きをつゞける不安のない世であれば、この中の誰か、一人としてその愛し兒を見知らぬ他人に托するでせう。

私どもは國家や社會が、この種の悲慘な子供や母親を前にして、その一部が明るみへ

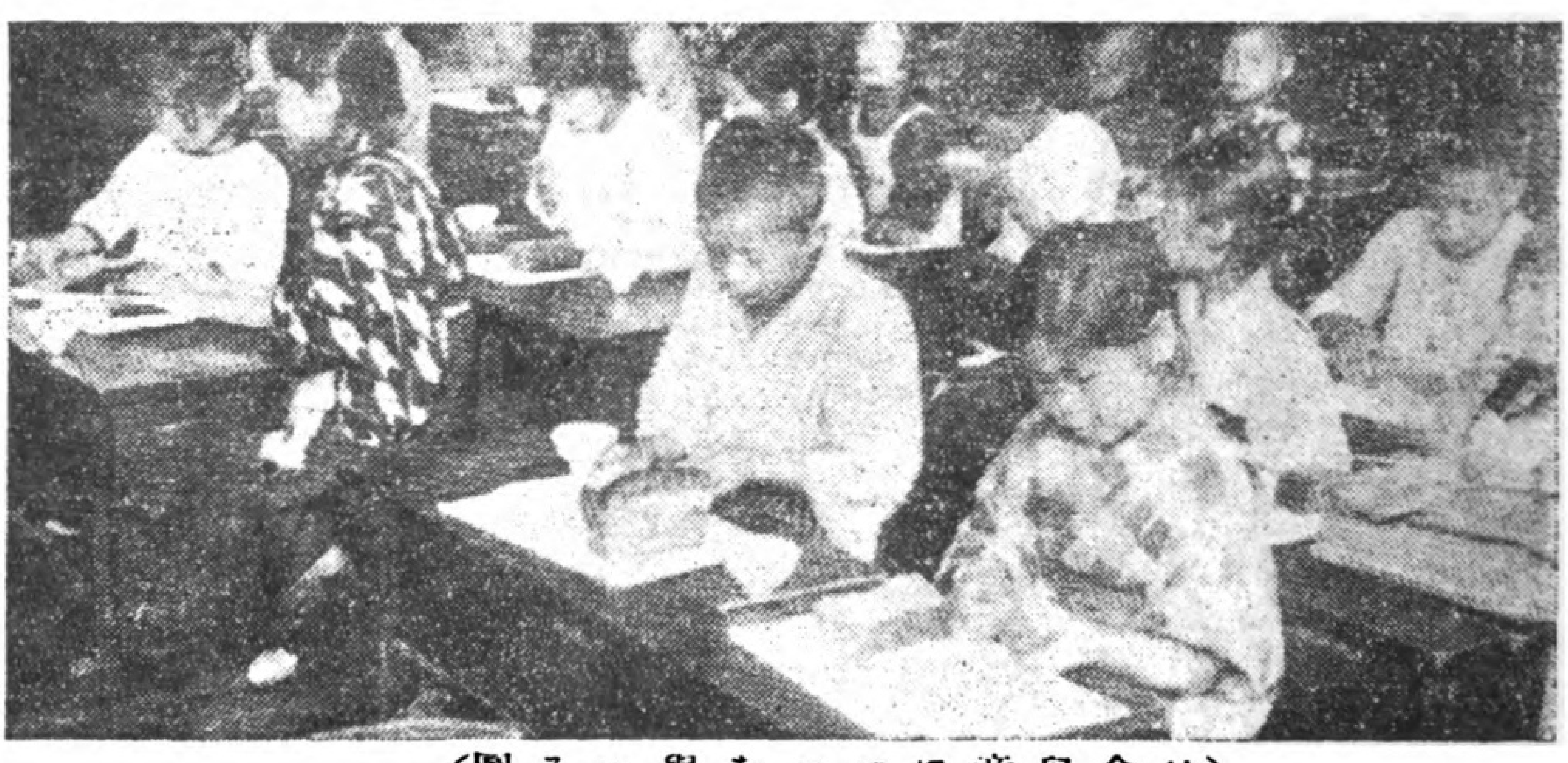


（殺された七人の地藏樣）

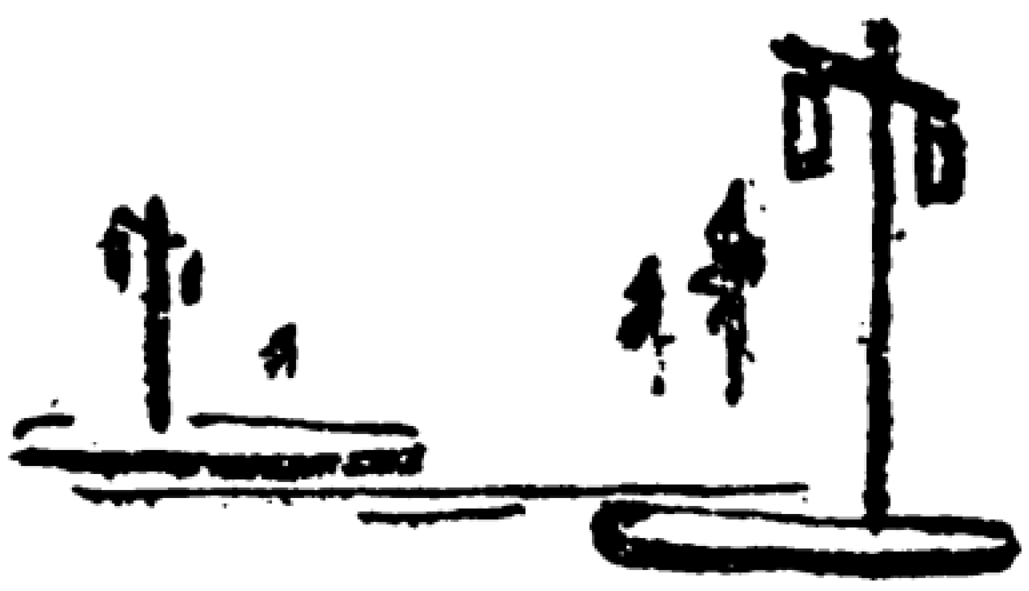
出された時だけ、取締や詠嘆をちよつと大きな聲で口にするだけで、あとは恬然としてその責を顧り見様ともせぬ態度を惜まずにはゐられぬのであります。子供は、むろんその兩親に屬するものでありますが、又同時に國家の一員であり、社會の一構成分子であります。また、子供を抱いてゐる母親は、同時に社會を守る母であり、次代の生育者として社會の母であるべきです。それにも拘らず我國の現在は、社會事業家、慈善事業家といふ少數の篤志家に、かういふ重大な、社會の根本に觸れた問題をまかせ切りにしておいて、それに對して國家も社會も一指もそめようとしない様な無責任極まる現狀であることを思ふとき、もつと重大に、母親や子供に關する問題を世間がとり揚げてくれる様にしなければならぬと信じます。その爲の世論喚起の必要からも、母子保護問題の急を叫ばないでは居られないのであります。かういふ焦眉の題目についてこそ、婦人團體が協力一致して當局の蒙を啓いてゆきたいものであります。

それにしても、徹底した母と子の爲の保護法規の制定及び保護施設の完備を大急ぎで要求しなければならぬ衝動を止められません。母親と子供を保護すると云ふことは、既に世界に認められた社會常識であつて、先進諸國では着々實現を急いでゐるものであります。例へば、母子扶助法、寡婦年金、姙産婦のための母性扶助、その他健康相談所、産院、姙産婦休養所、ミルクステーション、母親學校等々、そして母と子の保護を徹底させるためには當然、結婚前、出産前の時代から特別の保護が必要であつて、職業婦人勞働婦人の保護及び、産兒調節のための親切にして科學的な諸施設など、一日も早くこの社會に齎したいものばかりであります。

云ふ迄もなく一片の法令や、機械的な公共的事務映掌に依つてかうした重要な難事業の完成を期することは無理でありますから、婦人自身が常にしつかりした母權擁護の信念の上に立つてゐなければならないのですが、同時に國家なり社會なりが母親及び子供の保護について一半の責任を分擔すべきであることは云ふまでもありません。(奥)



(缺食兒童にパンを與へる圖)



消費組合婦人の社會改造運動に就て

奥むめお

國際消費組合デー來る

私たちは今や、七月第一土曜日の國際消費組合デーを迎へようとしてゐます。

社會改造運動の一つの動向としての消費組合運動は、今日では世界を通じての大きな潮流であります。そしてこの運動は、臺所を守る婦人の領域に屬するものです。

ものゝ買ひ手として、家庭勞務の擔當者として、そして妊娠、分娩、育兒等の母性的使命を賦與されてゐる婦人として私たちは、特にこの日、この國の國際消費組合デーを意義づけるために示威を盛んにやりたいと希つてゐます。それは、ただに消費組合の精神を弘布し、消費組合運動の捷利を公衆に宣布することを目的とするだけでなくて、臺所や買物籠や洗濯盥や乳母車や裁縫臺を通して、女の受持つてゐる社會的役割の重要さについて、人々の反省を要求するために必要だと信ずるからであります。

丁度萬國の勞働者にメーデーがあつて、五月一日を期して一切にその職場を放擲し、働く者の威力を社會に示すやうに、主婦である私たちが、七月第一土曜日の國際消費組合デーをわれらの紀念日と定めて、一切の家事勞務を中止し、女が一旦、その働く手をやめたらどんなに大きな影響を社會に及ぼすものであるかについて、自分でもその目で見、心で感じ、社會にも反省を促すことが出來たら、どんなにかよからうとは、常にひそかに私の考へてゐるところであります。今日、

幾萬の家庭婦人が朝も夕も、忙しく働き乍ら、その社會的に重要な働きについて少しも反省を試みることなく、盲目的な屈辱的なその日暮しをつゞけてゐる現狀はまことに〳〵惜しいことですから。

金子に換算されない女の勞働

今日の資本主義社會では、全て、人の營は金儲けを目的として行はれてゐます。米を賣るのも、味噌を賣るのも、菓子を作り、炭を燒くのも、流行のよい衣裳を考案するのも、醫者となつて病傷者を診るのも、發明に沒頭するのも、判事、辯護士として罪ある人を裁くのも、生徒を敎へるのも――全て、金儲け本位に働いてゐる人間の活動に外なりません。かういふ金儲け萬能の世の中で、女だけが、少しも金子にならない消費生活を受持つて家庭を守り、子供を育てゝゐるといふことは、これは大きな問題であります。母として幾人の子供を生み育てやうと、誰か、そのために手當を貰つたといふことがあるでせうか。そればかりか――女が、結婚し、姙娠し、子供をもつてゐるといふ理由のために、それまで持つてゐた職業を奪はれたもの、收入ある仕事を續ける事が出來なくなつて窮迫のどん底に陷つたものが非常に多いのであります。そして、女が受持つてゐる家庭の雜務は、隨分煩雜で疲れ易く、それだけでも、いゝ加減女の才能をもみくちやにしてしまふものであるのに、その仕事の故に女がいたはりをうけ、尊敬されたといふことを聞きません。

婦人參政權の問題だとか、敎育上の機會均等の問題だとか、公娼廢止問題だとか、團結權の問題だとか、婦人のためにも大分權利伸張の運動が進められてゐるのでありますが、たとへ、長い間奪はれてゐた女の權利が與へられて、男と平等の地歩を確保することが出來たところで、家庭が女の主宰するものである限り、そして母として、女が子供を生む限り、婦人解放運動の本道は決してさうした、男女平等權利の追究から發足するものではないと信ぜられます。

さうしてこの確信は、消費組合のもつ理想を充分に理解出來たとき、女の生活體驗からしつかりと摑むことが出來るのです。

消費組合は一切の營利を排する

消費組合は、組合員の出資金を集めて、組合組織に依り、

私たちの日常に必要な生活物資を仕入れたり、配給したりしてくれることだけを目的としてゐるものではなくて、寧ろその最高の目的は、この資本主義社會に於ける營利主義のものゝ賣り買ひ、金儲け本位の生産取り引きを絶滅しようとする大きな社會改造運動にあるのであります。私たちが、自分の家の庭隅に植ゑた一本のトマトの苗が延びて、花をもち實が成り、次第に膨んでゆく様を、朝も晩も家ぢうで覗きこんで無心な喜びと感謝に浸つてゐるときに、本職のトマト造りは、（米や麥を作る百姓や、菓子屋や、仕立屋や、お蠶かひやが皆同じであるやうに）このトマトを百匁幾らに賣らうか、全體で幾ら儲かるだらうかといつた風な、算盤づくの勘定高い心でそれを育てたり、量つたりしてゐるのです。この算盤づくの生産、加工、賣買の世界の抜け目のなさ、親切のなさ、樂しみのなさ、不信と僞善に人間が堪え得られなくなつて、新しい社會を曉望した、そこに消費組合の精神が組み立てられたのであります。

　ですから組合も、ものを賣る店でありますが、普通の商店が、たゞ金儲けの爲にのみ商つてゐるのに反して、組合では、たゞ組合員の需要を充たすための供給、加工、生産をしてゐるだけです。ですから組合では、利潤とか利益とか云ふ言葉さへ、その字引から抹殺しようとしてゐるので、もし、經費を差引いて餘つた金子があれば、これを剰餘金と稱してゐる程であります。消費組合の理想は、成るべく經常費を少なくして、剰餘金を積立てゝゆき、それを資本に廻して組合で必要な一切のものゝ生産と加工を行はうとするばかりでなく、更に進んで、娯樂機關も、教育機關も、修養機關も、病院も、學校も、住宅も、藝術も、何にも彼もを、現在ではそれがまるであたり前の事のやうにして人々に依つて行はれてゐるあの金儲け主義に依らず、ほんたうに組合員の必要をみたす爲の、純粋の動機から、設備してゆかうとするのであります。即ち、消費組合は、私たちの生活の一切を、この資本主義社會の害惡から救はうとする運動であります。

ものゝ買ひ手としての女の力

　人は、何といふ大それた目的をもつて、消費組合は物を賣つてゐるのだらうと、嗤ふでせうか。（殊に、日本に於ける消費組合は多く、みんな小つぽけで、甚だ振はないのが多いだけに）。

然し、さうではありません。既に消費組合のよく發達したイギリスでは、未だ五十年に足りない歴史の間に、一年間の總賣上げ高が十六億圓を越え、國家內の一國家として隱然勢力のある消費組合網を張つてゐるのであります。然も、この「國家內の一國家」とまで其實力を誇つてゐる消費組合も、一人々々の主婦の豐かならぬ買ひ物に依つて支へられてをり、發展させられて來たものであることを思ふとき、私たちは、買手としての婦人の重要な地位と力を知るべきでありませう。

わが日本に於てもこの頃、消費組合に協力する婦人が漸く多くなつて、組合の成績が飛躍的な發展傾向を示してゐるのは何より力強い傾向であります。ものゝ買手として最も本格的なものは婦人ですから、婦人が消費組合主義の洗禮をうけ經營上の責任を分擔させられるやうになれば、これまで男子ばかりでやつてゐた組合が往々批難されたり、失敗したりして來たやうな、店鋪が汚ならしく不衞生的だとか、賣れ殘つて損をしたとか、品質が粗惡で使用に堪えぬものが出たとかいふ如きことは再び起る筈がないであらうと思ひます。

消費組合婦人の理想する新社會へ

なほ、ものゝ賣り買ひを金儲け主義で行はず、全然需要と供給の相互扶助でゆかうとする消費組合の反資本主義性は、また、ものゝ價値を、金子に換算されるものゝ上にのみ見ようとする今日の資本主義社會で、全く金子に換算され得ない仕事を受持つてゐる女の勞働の價値を正當に評價しようとする新時代精神に立つものであることは、云ふまでもありません。一部の婦人運動者が、政治や、教育や、職業上の機會均等を求めて、「われらに働く部署を與へよ」と叫んでゐる一方で、消費組合婦人は、臺所から、子守唄に和して、「母性を理解せよ」「母子の生活權を保證せよ」と社會に訴へようとするのであります。

在來の因襲的な古い家庭生活の樣式を、便利で快適な文化生活に改めて、婦人の生活にも餘暇多からしめ、社會的に協力しようとするのは、時代の必然的の趨勢でありますが、それにも拘らず、婦人が、次代の生育者として安心と喜びの中に姙娠、分娩、育兒の仕事に從事し、又、仕立屋が洋服を縫ふやうな、料理屋が食膳を整へるやうな、保姆が子供をみるやうな、そんな職業的な利害觀念を伴はない、純粹な滿足と喜びの中に全ての家庭勞務を着々ととり運んでゆくことが出

來る樣に、婦人と子供の生活權は當然に社會が保證すべきであるといふ要求も、もし、その人が結婚生活に入つてゐずとも、子供がなくとも、母性に立つ婦人の等しく共通な、衷心の願ひでありませう。そしてこれは、うれしくも消費組合の營利主義を排する反資本主義性と共通のイデオロギイであります。

この意味に於て、消費組合主義に依る社會改造の可能を信ずる婦人は、卒先して消費組合の精神の弘布につとめ、日用品は成るべく多く、組合の店より購ふやうにと勸誘すると同時に、今日のやうな資本主義的營利社會では、とかく無視され、あとまわしにされ勝ちな、姙産婦保護の問題、失業問題、兒童保護問題、社會保險問題、住宅問題、教育問題、戰爭問題等、多方面の社會問題について必要にして、適切な對策を講じ、やがて、資本主義社會のもつ必然的疾患の最後の一つまでもなくなしてしまふやうに、社會改造運動に、一人殘らずの婦人が協力參加したいものだと思ひます。

消費組合の仕事はこの最後の理想を遂げるまでは、決して止むことのないものだからであります。

獨立した母子扶助法の必要

内務省では救護法の實施を急いでゐるさうです。いろんな社會的不幸の惹起に刺戟されて母子扶助の必要を痛感したからださうであります。

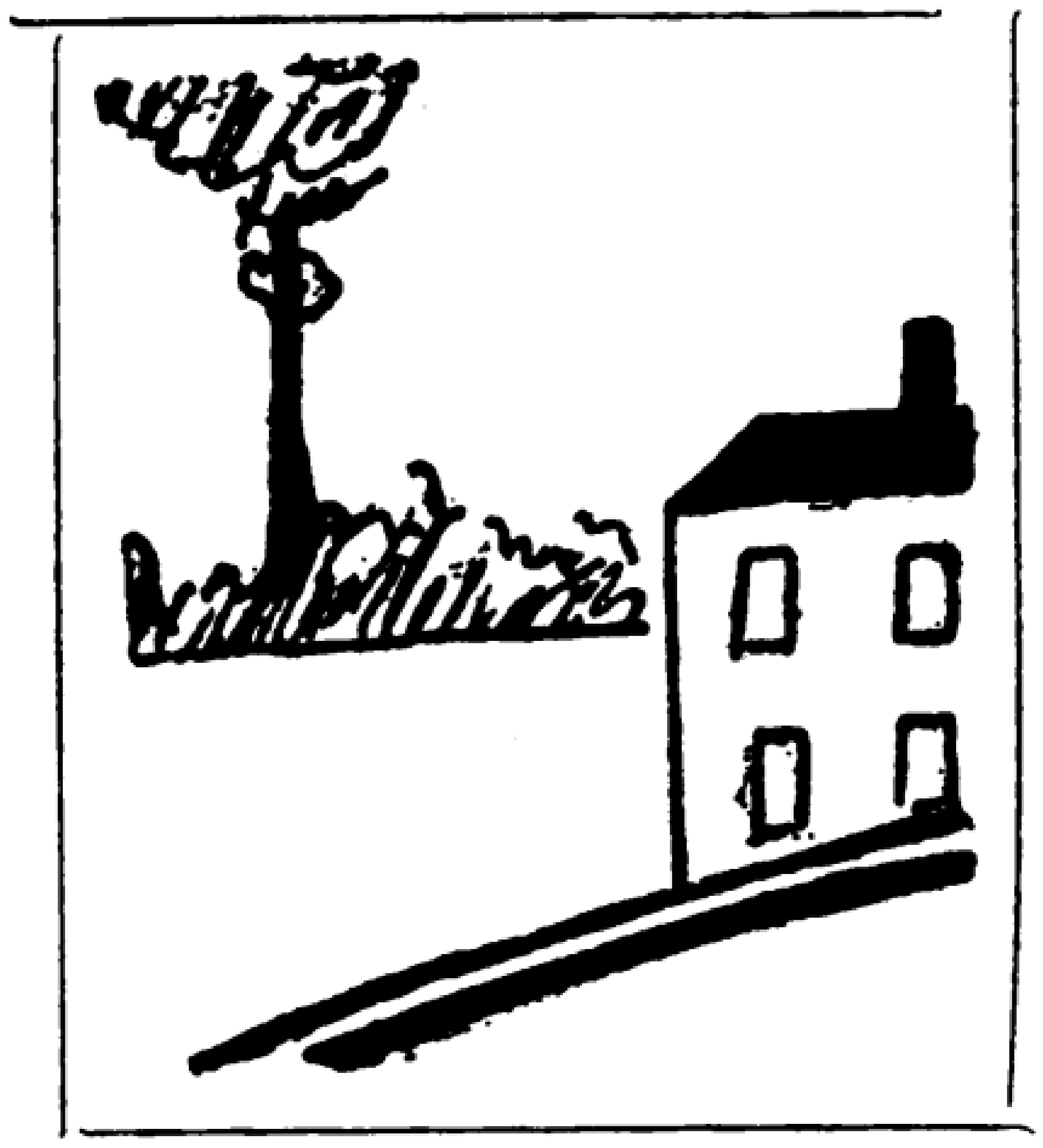
成程、豫算八百萬圓を計上してゐる救護法の中には、明文で貧困なる母子を扶助するのであることを示されてゐるのです。然し、内務省案は――左ニ掲グル者貧困ノタメ生活スルコト能ハザルトキハ本法ニ依リ之チ救護ス

一、六十五歳以上ノ老衰者　二、十三歳以下ノ幼者　三、姙産婦四、不具廢疾、精神又ハ身體ノ障碍ニヨリ勞務ニ故障アル者

と書いてあるのであつて、母子の扶助を直接の目的にして出來てゐるのでは決してないのです。こんなに廣汎にわたる澤山の不幸な人と一緒くたにして、母子も扶助するのだと力んでゐる處、この法案が慾ばりすぎてゐるともいへるし、結局、みんなを保護するに足りないで終るだらうとも云へます。私たちは、實質的な保護をほしいところ希へ、中味のない、名ばかりよささうな法案を幾つ議會できめて實現して貰つたところで仕樣がない、と云はねばなりません。

殊に母子の扶助といふことは次代の國民たる子供と、その母親を保護して、益々よい社會を建設しやうとする精神から出るのであるから、決して老衰者や不具廢人と一つにして救ふといふ心で取扱はれるべきものではありません。むしろ全ての母親と子供は、當然の權利として相當の保護を社會に要求すべきなのであります。

先進諸國に行はれてゐる母子扶助法の實際について、來月號に大石さんが書きます。



勞働組合法を廻る勞資の對立

赤松明子

勞働組合法を廻る勞資の對立は、最近益々尖鋭化して來た。

その初め勞働者側即ち、凡ての無産政黨、勞働組合は、現在問題となつてゐる政府の提出せんとする勞働組合法案なるものは、一、團體協約を認めないこと、二、組合員の故を以て解雇又は採用拒否の條件とした資本家の處置に罰則を適用しないこと、三、内務大臣の組合解散權を認むること等の諸點について缺陷を有するものであるとして反對して來たのである。然るに工業クラブ、全國各商業會議所、紡績聯合會等を始めとして、全國二十四の資本家團體は、この數多缺陷のある勞働組合法案に對してすら、急進的すぎるとか、或は階級鬪爭を益々尖鋭ならしむるものであるとかいつて、大々的な反對運動を開始して來た。

玆に於て勞働者側は、資本家の挑戰に對抗して、全國的勞働組合法獲得運動を起すがために、社會民衆黨及び日本大衆黨は共同聲明書を發して、資本家側の盲動に報ひ、また社會民衆黨は、全勤勞大衆の公平なる審判を得んがために、工業クラブ、商業會議所等に立會演説を申込む等、手を替へ品を替へて、勞働組合法の獲得に邁進しつゝあるのである。

云ふまでもなく現在我國に於ては、十九年の古き歴史を有する日本勞働總同盟を始めとして、大小無數の勞働組合が存在してゐる。そして勞働組合法による法的の存在こそ認められてゐないけれども、從來の政府は大體これを默認して來た

のである。一方勞働組合の方でも、法認の如何に拘らず、公然たる團體として、政治的活動もすれば同盟罷業もやれば、團體交渉もするなど、全く公認的勞働組合と少しも變らない活動を續けて來たのである。であるからこゝに制定さるべき勞働組合法は、現在あるがまゝの勞働組合を認めるものでなければならぬといふのが勞働組合側の多年の主張であつた。そしてこの點に於ては、次の議會に政府の提出せんとする勞働組合法案は、從來のそれに比して幾分勝つたものといふことが出來る。

　かやうに勞働組合法制定の基礎を、勞働組合の現在あるがまゝの狀態に置くとするならば、勞働組合法の制定といふことは勞働組合に法認的形式を與へるに過ぎないのであつて、何も事新しい社會現象を生むものではない。であるから政府案のやうな勞働組合法の制定は、階級鬪爭を益々激成せしむるものであるといふ資本家側の反對意見は、普通の常識を以てしては到底考へ及ばないところである。しかし一歩退いて資本家的立場に立つてこれを觀察するならば、この氣持がはつきりうなづける。次に資本家の反對理由を聞いてみよう。

　先づ第一に、一口に資本家側の反對といつても、原則的にはこれを二つに分けて考へる必要がある。その一つは勞働組合法の全體的反對、卽ち法制上勞働組合法制定の必要は少しもないといふ意見であり、その二つは部分的反對卽ち、各條項についての資本家的立場からの反對意見である。そして前者の意見を有するものには、日本工業倶樂部、鑛山懇話會、鐵道協會、鐵道同志會、東京商工會議所、神戸商工會議所、東京及横濱の實業組合聯合會、横濱工業協會、北九州工親會門司工業懇話會等があり、後者には電氣協會、大阪工業會、大阪府工業懇話會、兵庫縣工業懇談會、筑豐石炭鑛業組合等がある。なほその他紡績聯合會、鐵綱協議會等も絕對反對の意見を有するといはれてゐる。

　第一の全體的反對論についてみるに、彼等は次の如く云ふ。

「法制上勞働組合法の必要はない。歐米で組合法の立法されたのは、勞働組合の組織及び其の團體運動を違法なりとする禁令を有した國、又は合法的なる組合運動に對し損害賠償等過重の民事責任を負はせた實例があつて、之等の壓迫を排除するため、組合の組織及び共運動を違法ならずと宣言するために立法せられたもので、積極的に組合を保護、助成する爲め立法されたものでない。從つて禁令のない國に於ては特に

組合立法をなさぬ國が多い。我國に於ては團結權は憲法を以て保證され、組合運動の障害であつた治警法第十七條は撤廢された今日、何等組合の組織を阻止する法規なく、從つて今日特に組合法制定を必要とする法制上の理由がない。歐米諸外國に於ても特に勞働組合法といふものを制定してゐる國はないのだから、我國でも別に勞働組合法を制定する必要はないのであつて、現在の勞働組合を自然發生の形に任したらばよい」といふのが、彼等の云ひ分である。

これは一面尤もな意見のやうに思はれるが、我國に於てはこの事實は當てはまらない。何故なれば、我國に於ては勞働爭議の場合に、地方の下級官憲は勞働組合を非合法的存在と見做して不當な暴壓を加へた例は枚擧にいとまがないし、また大小の資本家が、表面の理由はどうであれ、實際には勞働組合員であるが故に無法に馘首した例はこれまた少くないのである。その他我國の大工業は殆んど官業と纎維工業に獨占されてゐるが、兩者ともに現在に於てはその組織が非常に困難であり、最も強く勞働組合法制定の必要を痛感してゐるものである。だから、この勞働組合法制定無用論は、我國に於ては全く一顧の價値だにない愚論であるといふことが出來る。

第二の部分的反對論としては次の諸點を擧げる事が出來る。

一、雇傭者は勞働者が組合員たるの故を以て解雇することを得ず。雇傭者は勞働者が組合に加入せざる事、又は組合より脱退する事を雇傭條件となす事を得ず。(十二條)の規定は個人の契約の自由を無視し、組織勞働者の保護のため事業統制を困難にし、非組織勞働者に不利を與へる。

二、組合役員及び組合員に對し爭議に關する損害賠償の免責規定(十三條)を設けてあるは、不當なる爭議又は無責任なる行爲を誘發し、雇傭者は不當な損害を蒙る。

三、不當なる罷業又は怠業に對し、禁止又は取締るべき法規の援用は出來るが未だ充分でない。

四、勞働者の團體のみに特別の保護を與へようといふ差別的立法は、勞資の對立を前提とした國情無視の階級的見地よりの立法であり、勞資協調の破壞であり、産業を危殆に導くものである。

この中最も重要なる論點は、一及び二の二つであると思ふ。若しも資本家側の要求するやうにこの二つの條項を全然削除するかまたは書きかへるかするならば、それは丁度狼の牙を拔いたやうなもので、勞働者は全然その武器を剝奪されてし

まつたことになる。即ち前者は勞働組合の生存權ともいふべき團結權の根本的基礎を破壞するものであり、後者は勞働者から待遇改善、不當解雇に對し使用し得る唯一の武器たる罷業權を完全に奪ふものであるからである。云ふまでもなくこの二つの條項は、勞働組合生存の死活の鍵を握るものであつて、どれ一つも決して削除することの出來ない重要條項である。勞働者に最も必要な條項は、資本家側には最も鬼門とする條項である。資本家側がこの二條項の削除を特に强調してゐるのも宜なるかなである。

この間にあつて、政府當局としては、安達內務大臣が、資本家側がいかに反對しようが次の議會には勞働組合法案を必ず提出すると、頑强に主張してゐると傳へられる。しかし與黨民政黨內にも可成の反對があるさうだから、結局に於ては、資本家側及び民政黨內部の反對に屈服して、この案を引込めてしまふのが落ちではないかと一般はみてゐる。

かやうに政府案をめぐつての政府、資本家團、無産團體の動きは、三派三様の形をとつてゐるけれども、無産團體としては尙ほ且つ無産團體獨自の勞働組合法案を提げて、決死的鬪爭の決意を固めてゐるのである。

勞働者の眼

松山しげ子

あれからもう何年位たつたかしら、まだ女學校の三四年の頃、私はある日新調の洋服を着て元氣よく家をとび出した。一つの洋服をいろ／＼に工夫してやつと仕立上げると、その着心地をためしに、早速外出するのがその頃の私の習慣でもあり、この上もないたのしみでもあつたので。

丁度家の前は水道工事の最中で、大勢の勞働者達が、やけつくやうな太陽の下で汗みどろになつて働いてゐた。私をみつけた一人が大聲でからかつた。「あゝあゝ俺のかゝあにも一度あんなのを着せてやりてえなあ」皆がどつと笑つた。こんなことには馴れてゐたので私も笑ひながら一寸振りかへつた。その拍子に私は見た。そのふざけた調子とはまるで反對な、眞面目な、しみじみした二つの眼を。私ははつとした。胸が一杯になつた。何かしら非常に惡いことをしたと云ふ感じがその日一日私の心を壓へつけた。

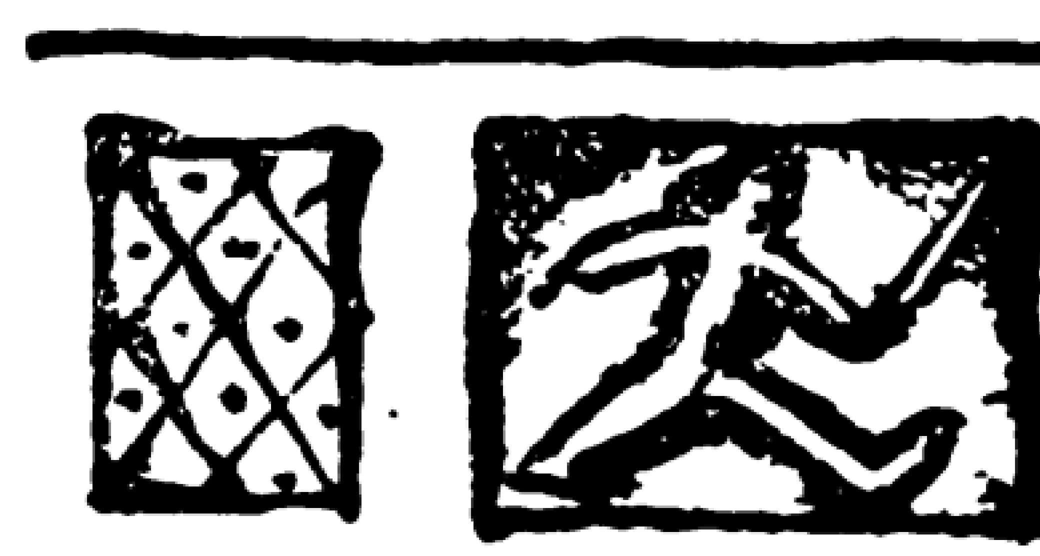
かゝとの高い靴、最新流行の帽子、はでなきれ地、さうしたものを手にしてゐる最中にきまつて私はあの勞働者の眼を思ひ出す。私は買ひかけの品物をそつと返して、その代り地味な、出來るだけ目立たぬものを買ふ。そして何がなしに心からほつとする。かうして私はだん／＼黑つぽいものを身につけるやうになつた。「何故そんな地味なものばかり着るの」とよく人がきく。「好きなの」と私は笑ひながら答へる。心の中で十年前にみた勞働者の眼と、あの時の子供らしい苦しみとをもう一度思ひ出しながら。

一、本當の意味での新しい女とは？
二、我が好む女、わが夢想する女？
三、現代職業婦人に對する希望？
四、戀愛と結婚をどう結びつけるか？



正宗白鳥

拜復　小生は、新時代の婦人に接する機會少なく、その眞相を解しかね候。しかし、雜誌や新聞によつて、いろ〳〵の異つた婦人の出現することを知るたびに興味を感じ候。戀愛の態度に於ても、社會問題、政治問題についても、舊套を脱した婦人諸君の活躍されることは甚だ結構なることゝ信じ居候。



小川未明

一、隷屬的の考へを持たない、極めて、自由、自治的な、姿態にある婦人をいふのでありませう。服裝についても、自からが、美しくあるために、自からの趣味感情の表現につとめることゝ思ひます。

それは、いかに新鮮な、活々とした感じを與へるか知れません。

コムミユニズムや、アメリカニズムに感染したものゝ態度や、風姿は、決して、自然な、快いものではありません。やはりどこかに隷屬的な卑屈さを示すものです。

二、主觀的に、美しいことを第一條件とします。思想は明晰でも、夢を持つ人です。しからざれば、いくらかは愚でも純情の婦人です。そして、約束は守り、いかなる場合にでも、お互の私的關係を公的に發表するといふやうな、ヂャナリズムの前に躍らない人です。相愛するかぎりは、互の欠點

を許すべきです。そして、どちらかに、愛の去つた時は、だまつて、永久に去つて行くべきです。か〻る思想の持主を私は好ましく思ひます。

三、職業に忠實である以外に、上役や、雇主に、特別の媚を賣らざることにつとめなければなりません。今日、男子ですら、この卑屈な態度の人が多いのですから、婦人には、ありがちですが、この種の弱點に打ち克つことが必要です。次に、いかなる客に對しても、一視同人、平等の態度を持つべきであります。

四、戀愛なくして結婚はあり得ないと思ひます。結婚後、往年のやうな感じが自然に失せて、新に戀愛の生じた時は、その人達の境遇に從つて、特殊的な性質ある戀愛を形成するでありませう。その時は、結婚が目的でないから、結婚と引離して考へらるべきものです。



林　房　雄

一、獨立の性格と意志をもつた、男に賴る必要のない女だと思ひます。この獨立的な女の型は、女がブルジョア的な家族關係から解放されると同時に、生活の荒波の中で靜かに鍛へあげられて行くのです。

ブルジョア的な家族關係とは、女が獨立の人格を認められず、娘として妻として、父長及び良人に半奴隸的な從屬を强ひられてゐる現在の家族狀態を申します。

この家族關係は、現在に至つて漸く崩壞し始めました。それは中產以下の大部分の家族が、勞働し、職業をもつ女を生み出し始めたからです。勞働の中で、職業の中で、女は次第に古い型から解放され、新しい性格を自分の中に養ひ始めました。勞働の場所、職業の分野は、以前の狹い家庭勞働よりもずつと廣々とした經驗の範圍をもつてゐます。勞働婦人、職業婦人の見聞は廣くなり、意志は鍛へられ、そして、男に賴る必要のない眞に新しい女が生れ始めました。

新しい女であるためには、何よりも先づ、彼女が勞働婦人であり、職業婦人であることを要します。獨立の仕事をもたず、たゞ頭だけで「自覺」した有閑階級の「新しい女」たちの行動が時に奇矯なものにしか見えないのは、彼女等がほんとの獨立婦人でないからです。父や良人によつて養はれてゐる寄生物にすぎないからです。

勞働婦人、職業婦人たちの、この心の新しさは、やがて外型にも現れて來ます。彼女等の動作は活潑になり、瞳の輝きは増し、言語もはき〳〵と、そして四肢はすこやかにのび始めます。（現在の資本家的な惡い勞働條件が、非常に彼女等のギリシヤ的な肉體的な美しさを妨げてゐますが。）また、變化は服裝にも現れます。活動に適した衣服、活動に適した髮型——私たちは、それらの新しい女の新しい外型にもこの上ない美と魅力を感じます。

二、右に述べた新しい女の最近の典型である若きソヴエートの女子靑年共產同盟員。

現代の日本の若き勞働婦人。

三、みんな非常によく働いてゐると思ひます。たゞ、自分が一たい誰のために働いてゐるか。自分の勞働が自分を富ましてゐるか、社會全體を富ましてゐるか、或は社會の中のほんの一握りの資本家を富ませるために働いてゐるか、をよく考へて見ること。

婦人雜誌式に、いたづらに男性の誘惑を恐れたり、呪つたりしないこと。多くの男性の中から、眞の友人を自分で選び出せるだけの能力を養ふこと。其のためには、一度や二度の戀愛經驗に恐れてはいけません。最初の惡い相手のためにうちのめされ、めそ〳〵泣いたり、折角職業婦人として立ちながら、それを單なる嫁入仕度と考へてすぐに便宜的な結婚に飛びこんだりしてはいけません。どんな經驗にも恐れずにぶつかりなさい。新しい經驗は正確に一つづゝあなたを新しい女に近づけます。

四、この一見わかりきつたやうな問題に、若い人々が惱まねばならぬのは、現在の結婚制度が、ブルジョア的なもので戀愛や相互の理解の上に立つものでなく、單なる財產關係の

上に立つてゐることから起るのです。

職業婦人は、遠慮なく戀愛の基礎の上に結婚をうち立つべきです。むろんその場合、娘を「玉の輿」にのせようとする父母や、自由な戀愛を今尙罪惡視する世間の反對や、壓迫をうけるでせう。が、若いものは、それと戰ふことが出來ませう。

職業婦人は、相手に職業人を選ぶべきです。相手の財產や地位と結婚しようとすれば、そこに不用な悲善劇が起ります。戀人同志が互ひに貧乏である時には（勞働人は現在は皆貧乏です）古い結婚形式では駄目です。二人で働ける結婚樣式を考へなければなりません。古い型の家庭を持たず、夫婦が一週に一度か二度づゝ戀人のやうに逢ふことも一つの新結婚形式でせう。

職業婦人は、戀愛と結婚だけでなく、戀愛と結婚と職業の三つを如何に結びつくべきかを考へねばなりません。この三つのうち一つを失つても、あなたの幸福は完全ではありません。



加藤一夫

一、新しい女と云ふことが、もし近代的な婦人と云ふことであるなら、それは今日のモガと稱する樣な女に最もよき典型を見出します。モダンと云ふことは近代文明の產む必然的な生活的精神的樣式ですから。しかし、我々の倫理的道德的要求から一つの理想的な婦人は何かと云ふことになればまた別です。だがその場合には最早「新しい女」そのモダン婦人とか云つたやうなものではあり得ないでせう。強いて云へば、近代文明の否定の上に立つ女こそ最も新しい女でせう。

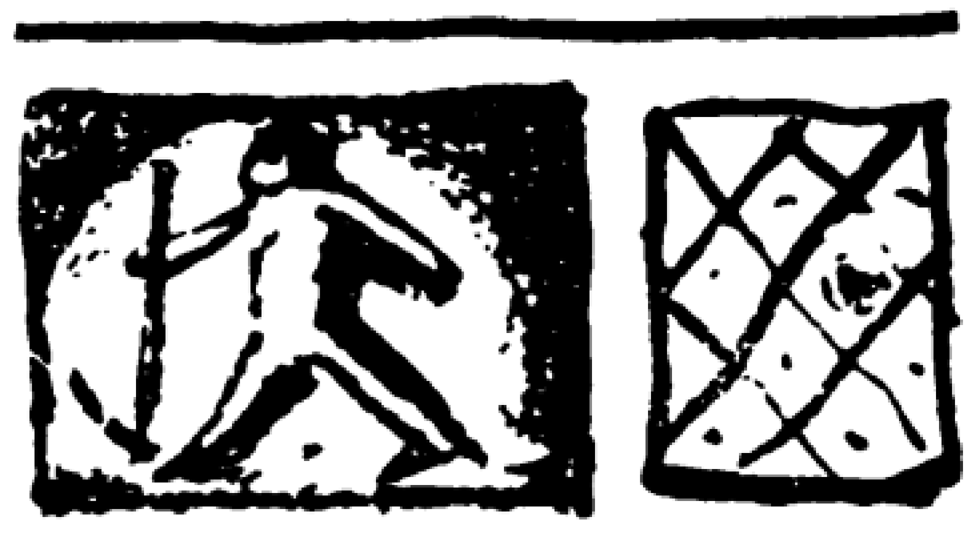
二、「私の夢想する女」今となつては若い時のやうにどんな女がいゝかと云つたやうな夢想なんかありません。寧ろこんな女はいやだと云つたやうなことの方がさきに立ちます。嫌な女は、政治運動なんかするもの。いやに氣どつたブルの女。貴族的な女等です。モガはまだかわいゝです。好きな女と云へば、何と云つても美しい女がいゝです。しかしその美の標

準がまた違ふでせう。まあ、一口に云へば私の好きな女は、お上品に氣取らない女。近代的にブラない女。落着いて居て、靈的な叡智に充ちた女。ほんたうに愛の心からやつて居るのなら、無産階級の女鬪士と云つたやうなもの、等です。

三、職業婦人は現代の社會に於ける必然の産物であるから無論私は貸撤します。たゞ近代文明の害毒に染められないやうに。やつぱり、いゝお母さんになることを拒絶しないやうに。

四、戀愛は何と云つても性的衝動の刺戟から初まると思ひます。けれど、誰もやつぱりそれだけではいけないと思つてそこに、精神的な心靈的な要素を見出さうとします。だから私は、戀愛のしつぱなしには贊成出來ません。たゞ、結婚は一生のことですから、これは簡單には出來ません。一生を共にし得る人とのみ戀愛したいです。もし過つてさうでない人と戀愛したときには、理智を働かして早くわかれたいです。

下村千秋



一、個人的には絶えず自分の生活を清算して行くもの、社會的には絶えず無産者の生活のため鬪ひつゝあるもの。

アメリカニズム、モダニズムに生きる女は、人間生活の大道に、泥水と惡臭を發散する散水車である。それを禮讃する男は、現代に於けるボーフラ的存在である。

二、悲劇を享樂しない女。戀愛至上に生きない女。生活上に目標を置いとく女。

三、何故自分達は働かねばならぬか、そしてそれは誰のために働くのか、自分達の勞働の結果はだれに依つて最も多く搾取されるか、それ等をはつきりと自覺すること。

四、戀愛のために生活を犧牲とするものを嗤ふ。結婚のた

めに結婚するものを嗤ふ。

戀愛は生活と平行して進む一線である。戀愛は生活の伴奏である。戀愛は生活の伴侶者である。故に戀愛のために悲劇を起すことの馬鹿らしさを嗤ふものである。

結婚もまた生活と平行して進む一線であり、生活の伴奏であり、伴侶者である。故に結婚のために悲劇をつくり出すことの滑稽さを嗤ふものである。

すべては生活——自分の生活、及び社會の同志の生活——を主體として決定するものである。生活を殺すものであるとき、戀愛も結婚もなし。生活を進展するものであるとき、戀愛とは握手すべきである。

戀愛と結婚のために生活を破壞されるものあまりに多すぎる現代なれば、特にかく主張するものである。



今野賢三

一、今日まで、モダン婦人の定型のやうに考へられ、もてはやされ、さうして流行をつかんでゐるかのやうに見えるタイプには、私は贊成する事が出來ません。

さんらんとしたブルジュア文化の生活のなかに、あでやかに、ほこらかに、外面的、氣分的——美に醉ひ、美に溺れて、さうしてまた美を裝ふことに、明け暮れ空虛になつて生きてゐるかのやうに見える、モダン婦人に贊成しません。

斯う言つたからとて、今野は、女性の本來の美と、なんらかの調和的な裝飾そのものを、輕蔑するものではありません。

しかし、刺戟的、外面的、頽廢的な强烈な色彩をもつて裝はれる美は、エロテツクなアメリカ的、ブルジョアの享樂生活を、無意識的に廣告してあるいてゐるだけとしか見えません。

眞のモダンの、眞の裝ひは、內面的なデリケートさが、外面的に調和させたものでなければならないと思ひます。

1、眞のモダン婦人は、反省的である事。

この意味は、單に、自己の、消極的な方面を反省するといふことではなくて、一般的な女性の特質としての、自己を、客觀的に見出すことを意味します。さうして、生きてゆくうへにおいて、邪魔になる、過去からの敎養、すなはち、資本主義的精神に依つて養成され、一定の性格づけられた缺點か

らの脱却、精算、そのもの〻意志的な努力をなすことを意味します。新生の行動的努力！

反省が、行動を意味せず、行動にあらはさうと努力しないだけの反省だつたら、すこし考へる婦人はみなやつてゐるでせう。

2、婦人解放を、表面的にのみ考へて、個人の消極的自由！を得ることを、（そして、わがまゝ、大膽、勝手、等の享樂的な、外面的な）自己本位のみの自由の獲得を！　その尖端的な個人主義を婦人の解放者と考へてゐる人達は、斷じて眞のモダンではありません。婦人が隷屬してゐたから、奴隷であつたから、自由を欲する！　といふ、その、解放されようとする氣持、その欲求は、充分に解りますけれど、そのために、自己本位のみの自由に生きようとすれば、現實の社會と衝突し、結局は、ブルジョア階級の玩具となることに依つてのみ自由を得る！　といふ矛盾に陷ります。自由を求めて、知らず〳〵玩具となるために裝ふて、これ日もたらないモダ婦人をあまりにも多く街頭に見受けます。

3、眞のモダン婦人は、社會性に眼ざめてゐることが、特性でなければならないでせう。『社會意識』の眼ざめは、當然『階級意識』の眼ざめであり、當然、男性と協力しての、『階級的義務』への、表面的行動や、裏面的、參加となるからです。

4、眞のモダン婦人は、弱々しい、女々しい、感傷性を脱却したものでなければならないでせう。細い線の感情ではなく、太い線の感情を、把握したものでなければならないでせう。夕暮に、なんとなく、薄暗く涙す、といふ感情ではなく、眞晝の太陽を仰いで、感激的に泣く、感情であつてほしいと思ひます。これは、培養し得る強い感情です。

5、眞のモダン婦人は、理性的、意志的！　であることです。苦闘のなかに冴えたる理性を持つて、ほがらかな、微笑を用意し、ときに（白刃をもくゞり得るといつたやうな）意志的信念の女性であるべきだと思ひます。

二、『我が夢想する女』を私だけの問題として考へることは、私に對するメンタルテストを考へることで、顏が赤くなるやうです。

もし、私のみの、夢想する女をいふなら、複雜に、心理的

に、廣く深い理解力をつて、その意味で、心からなるあるかさを持つて、内面的にも、外面的にも、協力し得る同志の女性を欲します。しかし、私は、プロレタリヤの鬪爭的立場に立つて、文學や著述を職業にしながら同時にそこに使命を感じ、また、政治的にも關心を持つて居ります。しかしながら私は、もはや一個のインケリゲンチャとして『文化的』な存在となりおはつてゐます。それだけ、我儘な、要求を持つ自分を恥とします。私一個の好む女性は、新鮮な藝術的、それは文學的感情をもつてゐてほしいと思ひます。その意味で、あかるく、はなやかで、理性的であつて、大膽で、ものごとにこだわらず、どんな苦難でも、正しくうけいれ、さうして、さはやかに人生を享樂して、まつすぐに、プロレタリヤの未來にむかつて進んでゆく！　さうした片手、さうしたプロレタリヤ運動の秘書役、机をならべる同じ事務員としての、文學、運動の仕事への協力者、そこに、階級的使命を見出す愛人！

なんと、注文澤山な、勝手な『夢想』でせう。自分ながらかうしてならべたてゝ見ると、苦笑し、赤面しますね。夢想ですけれど……。『いゝ叔父さん』になつた私も、心持は、新鮮な同志の愛人にあこがれてゐるほど、まだ異性への未練から拔けきれないのですから……。

三、職業婦人に對しては、申すまでもなく、社會性の認識を、なによりも强調しないではゐられません。結婚のみに生きてゐるのか？　たゞ生活の爲のみに生きてゐるのか？　さうしたことに、確固とした定見をもつてゐなければならないでせう。

經濟權をにぎつてゐるが故に、職業婦人はもはや、解放されてゐると思つては、大きなあやまりです。

職業婦人は、男性の、サラリーマンと、同じ位置におかれてゐます。その意味では、社會と直接に顏を合してゐる、經濟的な被支配者です。卽ち、お役所、會社、銀行、學校、あらゆる方面に於て、男性と共に社會的にしぼられ、ときに失業におびやかされ、ときに玩具にさへかざられてゐます。であるから職業婦人は、そのあたまの中に、個人生活と社會生活と二つを合せて持つことがなにより必要です！

職業婦人は、結婚を最後の目的としてのみの止むを得ない二重生活か？

職業婦人は、たゞ、喰はんがためのみ、一時的方便に働くだけで、ほかの『社會生活』を考へる必要はないのか？

職業婦人は、勞働者農民の、解放運動とは無關係な存在なのか？

職業婦人が、結婚の喜びに人生の價値を置くこともいゝが喰はんがための方便として『二重生活』を、なぜやらなければならないか？　といふことに疑惑をもち、自己の結婚生活さ

へおびやかされるであらう經濟的支配力の暴力に對抗し、社會性に自覺して生きることにも、人生の價値を見出さなければなりません。戀愛や結婚等の個人的生活と、社會的（階級鬪爭への）自覺的な生活とが、その生きるうへの、價値の點で統一したものとして貰ひたいものです。

職業婦人は、各銀行、會社、デパート等を通じてそのカラクリの根本を見きわめねばなりません。「どういふ社會だから、かういふカラクリが平氣で行はれてゐるのか？」といふとの根本的な問題を、ハツキリと見ぬき、ハツキリと握りしめるやうに努力し、そしてさうしたカラクリに打ちのめされ、敗北しないやうに！　たゞかつて生きてゆく！　その强さをそなへてゆく女性であつてくれることを希望します。戰ふことは、多くの眼覺めたものが團結することです！

四、戀愛と結婚とが結びつかないものだと、私は斷定的には言ひ得ないのですが、今までのやうな、自然發生的な、瞬間的な氣分を出發點として生れる戀愛では、結婚の現實にはいると、幾多の幻滅と、（感激の冷たくなるところから）結婚は、戀愛當時の『夢』と一致しなくなる場合が多いのです。

しかし、目的意識的な、相互の理解と、同趣味、同一信念、同一意識をもつての、そこに見出した强烈な握手の欲望に依つて！　そこに見出された美に依つて！　さうしてそれが、戀愛へまで高揚し、變形したとするならば、そこでは結婚が、現實生活をより協力して通過してゆくため、合法的な、もつとも實行しやすい共同生活の形式となるでせう。

斯うした場合においての、戀愛と結婚とは（それが内面的な深みをもつて二人が抱擁してゆくだけに）一致し得る可能性は充分だと言へるでせう。

しかし、結婚は元來、現實生活を男女が結び合つて通過してゆくための、一つの方便でもありますから、もつとも、事務化することを意味して居ります。この事務！　のなかに、戀愛感情をもちつゞけ得たら、戀愛と結婚と、一致することゝなるでせう。

結婚化した男女の赤裸々な共同生活といふものは、お互ひに極度にエゴイストになるべき性質のもとにあるものです。夫婦だからこそ、互ひにわがまゝになり、夫婦だからこそ、互ひに、强烈に、露骨に、自己を主張することゝなります。それなればこそ、結婚によろこびもあり、慰めもあると言へる場合もあります。

此のエゴイズム！　此の赤裸々な衝突！　こゝにまた戀愛のロマンチシズムを、根抵からくつがへす理由をも持つてゐるのです。それだからこそ、それだからこそ！　一定の目的をもつた結合が、一定の目的に依つての調和の意味で、相互に犧牲になり合ひ、相互にへりくだるか、たゞしまた一方の

良人の目的へ、自己を調和させ、協力する意味で、自己が良人のよろこびの犠牲に生きるか、等に依つて、エゴイズムは征服され、結婚はあかるく完成されてゆく救ひもあります。

不聰明な相手との戀愛は、結婚へ持つてゆくことが危險です。現實生活を、結婚をもつて通過するためには、人生に對しての『聰明さ』を必要とします。だから、目的意識的になつてからの戀愛が、結婚を、安全に通過し得ると、考へられるのは、聰明な理解と調和を意味するからです。

戀愛を、氣分的な點に價値を置くことに重點をおくのでしたらすべからく瞬間的な氣分のみに、滿足すべきです。幻影だけを、いや、非現實的なロマンチツクな享樂だけを、天國として追求すべきです。

しかし、醒めたる者は、果して、それに滿足出來ませうか。私はさうした、個人主義戀愛に、もちろん反對です。



千葉龜雄

一、時代の意義と進展を「正しく」認めて、その信念に從つて社會に進み行く女性。見榮とか、傳統とか、因襲とか、そんな邪魔ものを勇敢に振り切つて進み行く强剛な意志と、進路を誤まらぬだけの聰明を用意して。

二、聰明で、美しくて、理解が廣くて、愛情(廣い意味の)にあふれた女性。

三、現代職業婦人は、この上希望されてはやり切れないでせう。私は、職業婦人を雇傭してゐる人に對してこそ、うんとこさと希望――いや、そんな生やさしいものでない、むしろ注文を持つてゐます。職業婦人は、職業の狀態でも、給銀でも、ほんとに氣の毒だと思ひます。その上、いろんな、人權蹂躙の機會を狙つてゐる男性なるものを相手にしてゐるのです。で、私は、女學校の舍監のやうに、彼女等の貞操がどうの、行儀がどう、言語がどうと罵倒したり、または、彼女達を、文化の上に花さく毒の花のやうに、面白おかしいエロ的讀物の題材とするやうな人間に腹が立ちます。職業婦人が職業婦人たる正統の地位に置かれた時、いろんな希望を改めて申しませう。たゞ一つ、せめて職業的な、縱なり、横なりの組合か、集團を作つて、權利の擴張と防禦だけはするやうに自覺を持つてもらひたいと思ひます。

四、戀愛と結婚をどう結びつけるかと云つて、無論、結婚

は戀愛から出立すべきものだと信じます。友愛結婚も結構ですが、あれでは撰擇が、氣分的、機會的になる危險があると思ひます。そこだけはもつと忠實にしたい。樣式はあれで宜しいけれども。それから、戀愛や結婚は、なるたけ當事者に責任を持たす事にして、世間や政府や家庭などが、餘計な干渉をせぬやうにして欲しいと思ひます。

金子洋文

一、新しくたつて、なくたつて私には興味がありません。私にとつては、しつかりした氣持で無産運動に働いてくれる女の人に多くの尊敬をもたれます。モダンと名のついたものはあまり性に合はないので、モダン婦人を考へたこともないし、又考へる興味もわいて來ません。

二、夢想する女はありません。好ましき女も考へてみたこともありませんが、時々好ましき女に出會ふことがあります。たゞそれだけです。

三、現代の職業婦人に對する希望は先づ何より自分自身の立場を經濟關係、階級關係に於て凝視することです。嫁入支度のため働くといふ人には私の言ふことはナンセンスだと思はれるが、働かなければ食つて行けない人間にとつて、男女の差別はありません。したがつて生活權を主張することが當然であります。この自覺から、その特殊性に應じて結びついて、一つのかたまりとなつて行かなければならないと思ひます。も少し手つとり早く言ふと、職業婦人諸君は馘首になつた時どうするつもりです。泣き寢入りするつもりですか。飢ゑるつもりですか。

四、戀愛と結婚――へんに文學的に、或は自由主義的にかぶれないまじめな人間が、戀愛して結婚を望むのは自然の形でせう。できないのはいろ／＼の事情もあるが經濟關係が最も大きな原因でせう。今日の資本主義社會が解滅しないうちは二つの結びつきを、純情的に考へることは馬鹿らしい努力のやうに思はれます。

婦人運動ニュース

▼娼婦問題に世界的調査の手

國際聯盟婦人兒童賣買禁止委員會が、いよ〳〵我國始め東洋方面へ調査の手を伸すことは、米國社會衞生協會の十二萬ドル提供によつて五月十四日ジユネーヴ聯盟理事會で決定したので、アメリカ婦人一名を加へた三名の委員が任命され、今秋か初冬の頃來朝することが確實になつた。今度の調査は特に國際的取引に重きを置くものなので、海外出稼ぎ娼婦の調査を急いでゐるが、東京、大阪、神奈川の主なる遊廓、私娼窟の娼妓樓主とも直接面接して、實狀調査をなすものと見られ、その結果は我國公娼問題の上に大革正の機會をあたへるものとして廢娼團體、當局等でも各種資料を整へて待ち構へてゐる。

▼社民婦人同盟の失業對策運動

社會民衆婦人同盟及び總同盟婦人部では共同戰線のもとに、刻下の重大問題である失業對策運動を婦人の立場から起すことになり、目下準備中の由であるが、運動は主として演說會、ビラ等に依つて失業婦人の自覺を促すにありと

▼排日移民法の修正

―米下院移民委員會議長聲明―

米國下院移民委員會議長アルバート・ジョンソン氏は、五月二十二日聲明書を發して、移民法修正案を議會に提案の意圖を有する旨を明かにした。右修正案は大正十三年制定した排日移民法を部分的に修正し、日本に對しても一定の割合で移民を許可せんとするもので、これが實行さるれば、現行法に照らし、法定移民數**十五萬人**に對する一定割合が割當てられることになるが、これに依れば、**日本は約百名の移民を年々アメリカに送り得る**ことになる。この數字は極めて僅少であるが、大正十三年制定の排日の鐵則が碎かれるので精神的効果は極めて大きなものである。



學校給食の問題

不景氣が愈々深刻の度を加へ御飯がたべられぬ不幸な子供がうんと增加した。そこで學校給食の問題が、漸く世の視聽を集める樣になつて來たのであります。

發育期にある兒童に、充分な榮養をとらせ、完全な成長をとげさせる、これは極めて重要なことであるにもかゝはらず、現在の樣な社會狀態では、兒童を貧乏な、不幸な家庭にまかせ切りにしておいては、到底その目的を果すことは出來ません。そこで學校給食の必要が叫ばれる樣になつたわけですが、先進歐米各國に於ては、この事は早くから行はれて居りました。

學術の國ドイツは、今から一五〇年前、一七八〇年頃から、

▼大波紋を起した湯錢値下運動

―市會議員も協力して全市民の問題化す―

深川區の一角から叫び出された湯錢値下運動は、小市民階級に直接利害關係があるので、全市民の問題化す形勢となつたが、市會議員中にもこの生活問題を重視して深川區民と協力し、全市民運動を起すべく協議中である。一方市社會局の月島、古石場、本村町の公衆浴場が組合の委託經營となつてゐるので、全く社會政策的効果を擧げ得ないばかりでなく、組合の獨占的利益をはかる結果となつてゐるので、浴場組合と委託を廢止し、直接經營とすべしとの主張が市會議員中に問題となつて來た。月島公衆浴場の委託料は一ケ月二百三十五圓、古石場百三十圓、本村町百六十五圓であつて、普通の浴場の一ケ月賃貸料が五百圓から七百圓、その上に權利金一萬圓内外といふ法外な賃貸料と比較すると問題にならない。月島浴場委託者の報告によると一ケ月の計算書は燃料百八十六圓、電燈十四圓、水道料五十四圓その他を人件費に見積つて、收入一ケ月七百四十二圓に對して一ぱいに計算してゐる。この例によつてみても普通の浴場の一錢乃至二錢の値下は十分實現の可能性があるもので、燃料大安直の時代に最高直五錢の据置は不當であると云ふ意見が多い。



（寫眞は湯錢値下げ町民大會の狀景　東京日々新聞社撮影）

▼全國小學校女教員大會開かる

六月十四、十五、十六の三日間神田一つ橋の教育會館で、第十回全國小學校女教員大會が開かれた。全國よりの出席代議員は、五百九名。開期三日間に上提術議された議案の主なるものは

△小學校女兒の教育に於て特に留意すべき點如何（文部省諮問案）△如何にして小學校女教員の素質を向上せしむべきか　△小學校女教員の地位をして安定ならしむべき方法如何　△學務委員に關する規定改正の件

△小學校女教員の待遇並に初任給を向上せしむる爲適當の措置を講ぜらるゝやう其の筋に建議するの件

等で、殊に女教員の地位安定の問題は、問題が問題だけに議論百出し、各々お國なまりをそのまゝ盛んに氣焰をあげた。

貧困、榮養不良兒童救濟の目的を以て、これの初步的な事業に着手しました。軍國主義で聞えた國であるだけに、よい軍人を得たい心からこの事業を國家の問題として取り扱ふやうになつたので、徴兵檢査に不合格者が多いのは發育期に於ける榮養不足に在るとして、學校給食の普及につとめたのであります。

大戰になつて、食糧封鎖を受けたために食糧品が非常に不足した時にさへ、兵士、幼兒、兒童、乳母には、榮養不足を與へないことを目標としたといふこの國は、大戰終了後、學校給食は國民保建上、是非とも必要であるから、引き續き繼續すべしといふ輿論に基づいて、國家はこれに五百万マルクの支出をして居ります。然しこれは、一九二六年に於ける總給食經費の、二五％にしか當つて居りません。他の一五％は地方、五〇％は團體、一〇％は父兄の支出であります。被給食兒童の選定は、主に學校醫が行つてゐます。食事の品質とか種類とかは、地方に

▼保護團體の假面で預る少年を酷使

―勞働の日給がたつた五錢―

　東京少年審判所をくゞつた東京神奈川の兩府縣の不良少年約六千人中、大部分は民間の保護團體に預けられ、嚴格な教育をうけてゐる。ところがこの少年保護團體中に工場を經營し、預つた少年を職工同樣に作業せしめ、しかもその工場生活が工場法取締規則に違反する不當な取扱ひをうけてゐることがわかつた。

　市外西巢鴨町池袋の某學舍内の製菓工場、及び上板橋の某學院の玩具工場も審判所から少年四十餘名を預かつてゐるが、工場内のボイラーは不完全きはまるのみならず、寄宿舍は怖るべき程不潔で、寢具も綿がはみ出し、洗濯せぬらしく垢光りがして居り、食事の如きも粗食きはまることが曝露した。

　現在警視廳管下の少年保護團體中、工場を有するのは三ヶ所で、いづれも三四十人から百人近い少年を收容してゐるが、この少年一人について審判所からは一日五十錢の衣食費を支給してゐるのに、彼等少年の生活は非常にみじめなもので、工場勞働の仕事をしながら、一日五錢から三十錢以内の小遣錢を當てがはれてゐるといふ程度の報酬で訓育などは全く顧みられぬ。しかも少年等は今迄誰にもこの境遇を訴へることも出來ず、默々として酷使されてゐたものである。

▼全國勞働組合同盟結成大會

日本大衆黨系の勞働組合と、全國民衆黨系の勞働組合が合同した、日本勞働組合同盟、在勞働組合全國同盟、北海勞働總同盟、その他の地方的團體で、三府十六縣の廿五聯合團體六十五組合加盟組合員數は全體で、四萬千五百九十名、その代議員七百九十一名盛大な合同大會であつた。

▼母の講座を開始

―この夏三ヶ月に亘り文部省が全國各地に計劃―

　文部省では近來成人教育に力瘤を入れ出したが、そのうちでも家庭の主婦、特に母に十分の教養を授くる必要を痛感し、今年は夏期約三ヶ月に亘り、先づ岡山醫大、金澤醫大、奈良女高師、並にお茶の水の東京女高師に依囑し、各々その土地の狀況に適應した科目と講師を選定して貰つて「母の講座」と云ふのを開始することに決定。目下、夫々準備中である。

▼學校給食實施の機運動く

―可憐なる欠食兒童に同情集まる―

　不景氣の爲、食ふあてのない親の子として、悲慘な生活苦の中にあえいでゐる子供等は、發育盛りを欠食によつて青白く瘦せて行く。東京では、かうした子供達の爲に、東京朝日新聞が過般來學校給食を行ひつゝあつたが、六月十日で打ち切る筈の所、夏休みまで續行と決定し、その後は府が之をひき繼いで、永續事業を開始することになつた。文部省もこの爲に一肌脱ぐといふ

より異なつてゐますが、大都市に於てはパン、牛乳が主になつてゐます。ベルリン市の如きは壯大な市榮養調理所を五ヶ所も有して居て、一ヶ所に於て約一萬四千人分の調理を行ひ、小學校其の他に配給して居ります。

　英國では、給食に要する總經費の約九〇%は政府又は地方當局の負擔になつてゐます。身體檢査と家庭調査によつて兒童を選定します。配給の方法は獨逸と大體似てゐますが、センター又はスクールカンチーンといふ一種の賄所で、學校當局の監督の下に、調理會計を爲すものが最も都合良いとされて普及しつつあります。

　我が國で學校給食の施設をもつてゐるのは、現在一道三府二十三縣で、件數一二九に及んでゐます。けれ、もその目的は、單なる貧困救濟の程度をあまり多く出てゐません。その經費を出所別に見ますと、學校並に自治體が、その大部分を占めて居り、他は寄附、保護者會、教育會後援會の支出に俟つて居ります。れではその爲に完全な施

▼ホシ製藥のストライキ



四月二十九日に星製藥會社は突然職工三百六十名、社員六十餘名に對し、速達を以て「事業不振の爲解雇する」旨を言ひ渡した。解雇された從業員の大部分は、從業員同盟に加はつてゐる人達で、會社側の御用團體である誠意會には解雇されたものが一人もない。この不當な解雇通知をうけた四百餘名の從業員は、二十日午前七時頃から會社側の寄宿舍に集合して大會を開き一、解雇絶對反對一、作業即時開始一、工場閉鎖絶對反對一、暴壓絶對反對の四項を決議し、代表者はこれを携へて社長、重役に面會を求めたが不當にもこれを拒絶した。この態度に憤激した從業員は直に爭議團を結成し、一糸亂れず勇敢にたゝかつた

（上の寫眞は大山郁夫氏をむかへたホシ爭議團）

▼「支那」呼りお斷はり

日本人が中華民國を支那と呼んでゐることは從來民間で苦々しく思はれてゐたが、二十六日國民政府は「日本政府に對し、今後は大中華民國と記載するやうに要求し、若し支那なる文字を使用した公文書があつたならば、斷然受取を拒絶するやう」外交部に訓令を發した。

▼文化女護ヶ島

—日本最初の獨身女子アパート開館—

大塚女子アパートメントは三十五萬圓の費用と十一ヶ月の時日を費して、本年六月六日めでたく開館式をあげた。部屋數は百五十七、和室が六十一で、四疊半と六疊の二種、家賃は、九圓五十錢から十一圓、殘りは洋室で、三、四、五六坪の四種、家賃は十六圓位迄。居住者の大多數は教員、女學生、婦人記者、事務員で男性の訪問者は一階の應接間で、二階以上は男子禁制である。六階の屋上に設けられた日光室はこゝ特有のもので、ガラス張りの部屋、室內にはピンポン臺が置かれ、別室にはラヂオとピアノが一臺すゑつけてある。湯殿は三十人入り、一階の廊下にはミシンが二臺備へてある。一階の電車通りに面した部分は商店舖、お菓子屋、フルーツパーラー、美容院、雜貨店、食料品店が軒をならべてゐる。

設を持ち、榮養を考慮に入れた食物の調製等を行へる筈がありません。

知識偏重は現代教育制度の弊だと言はれてゐます。貧困であると否とを問はず、營養不良兒に見る弱々しい體、落ち着きのない態度、實に彼等にとつて學問等は、無用の長物に等しいものである事を思はせます。それにもかゝはらず畫一主義の教育は、彼等にも健康兒童に對すると同じやうに、知識だけをつめ込まうといふのです。これでは效果のあがる筈がありません。

現在ある一二九件の中、最も多數を占めてゐるのは、冬季に於て味噌汁を與へるものですが、あたゝかく食べさせるといふ事が第一の目的になつてゐて、榮養の點はあまり注意されてゐません。これを多少考慮に入れたもの位は全國的に行きわたらせるまでに、一般の輿論を換起したいものであります。（いく）

× × ×

國産運動の階級性

◇

不景氣が深刻になつて來て、失業者が全國的に汎濫してゐる。政府はその總數を三十何萬とか稱してゐるが、事實は百五十萬を突破するだらうとのことであり、しかも全く饑餓に迫つてゐる農民と、失業同樣の小賣商人とを數へれば、饑餓線上にさまよつてゐる人々は、三百萬四百萬にも達するであらうといふ、前代未聞の恐ろしい時代が出現した。これは單に不景氣だとか、不況だとか言ふ程度のなまぬるい問題では斷じてない。

◇

政府はこの失業洪水に向つて「これは世界的な現象だ、これを解決する名案はない」と匙を投げてゐる形であるが、然もやれば必ず出來る所の失業手當や失業保險、公共事業の計畫等はやらないで、比較的不景氣に困らない、大中資本家のために所謂、國産運動をやり出した。政府に言はせると、外國貿易不振や、世界的恐慌で行詰つた日本の産業をもう一度好轉させる道は、國産品使用を奬勵するにある。粗製濫造の國産品で間に合して、外國品をお互に使はないやうにすると、日本輸入は六億程減額する。そして大會社や大商會の倉庫に、山と積まれた品物は捌けて行く。まる〳〵六億といふ金が實業家の懷中へはいつて來るといふとても景氣のよい話である。

◇

國産奬勵の結果、莫大な利益が資本家のポケットにはいるとして、さてどれだけの利益が何會社に行き、どれだけの儲けを誰がせしめるかは、玆では詮索しない。從つて何々の商會がどれ程の運動費を出し、何々の財閥が此運動を支持してゐるか等の問題は暫く措き、玆に氣の毒に堪えぬのは、こんな運動に狩出される、婦人、子供や勞働者諸君である。尤も大實業家の夫人や子供は敬愛する夫、父と其事業のために、マネキンになつて街に立つと思へば以てあきらめもつくであらうし、大いに汗だくにもなれるであらうが。……

◇

緊縮、合理化を看板に、大資本家擁護を靈背にやつた現内閣は、藥が少しきゝすぎて、前代未聞の不景氣を喚び起し、阿鼻叫喚の失業地獄を招來したのに鑑み、何か看板の塗更へを必要としてゐたところ、偶然にも見つけ出したのが國産奬勵の運動である。第一資本家連が喜んだ。消極政策のお蔭で事業界は萎縮し、商品の販路は狹くなり、何ともやつて行けなくならうとしてゐたところ、お誂向きの甘い話がわいて來たのだから。……現に最初から内閣萬歳を稱

國産奬勵とはいかなる内容をもつか

へてゐた實業家連中も、そろ〳〵不平を言ひ出して、緊縮政策お取止めの請願運動を起してゐた位で、數日前も團、鄉兩男爵を通じて、方向轉換の献策をさせた程、事態は進んでゐたのであつた。流石に政府は看板の塗更へまでけ行かなかつたが、此際國産運動に邁進して、企業家、資本家に一儲けさせてやらうといふとになつたわけで、泣く子と地頭には勝たれなかつたわけである。

◇

ところで國産奬勵の結果、日本の失業者にもやがて仕事が出來るだらうなどと考へるものがあるならば、それは大いに不心得なものであると言はなければならない。

産業合理化の結果として、生産能率が昇つたが、肝心な買手がない。全國の購買力は極度に低くなり、外國貿易は益々不振となり、一ばん大切なお得意の支那でも内亂と爲替下落が祟つて日本品の賣行は駄目になつた。それではせめて國内の市場だけでも滿足にとつて置かなければ日本の資本主義が立つて行けない。日本の市場だけは守らうと言ふ資本主義の歳末賣出しが、今度の國産運動である。だから景氣がよくなるなどの期待もまた、今に俺たちにも仕事が出來るだらうの期待も、ともに不心得の沙汰と言はなければならない。

◇

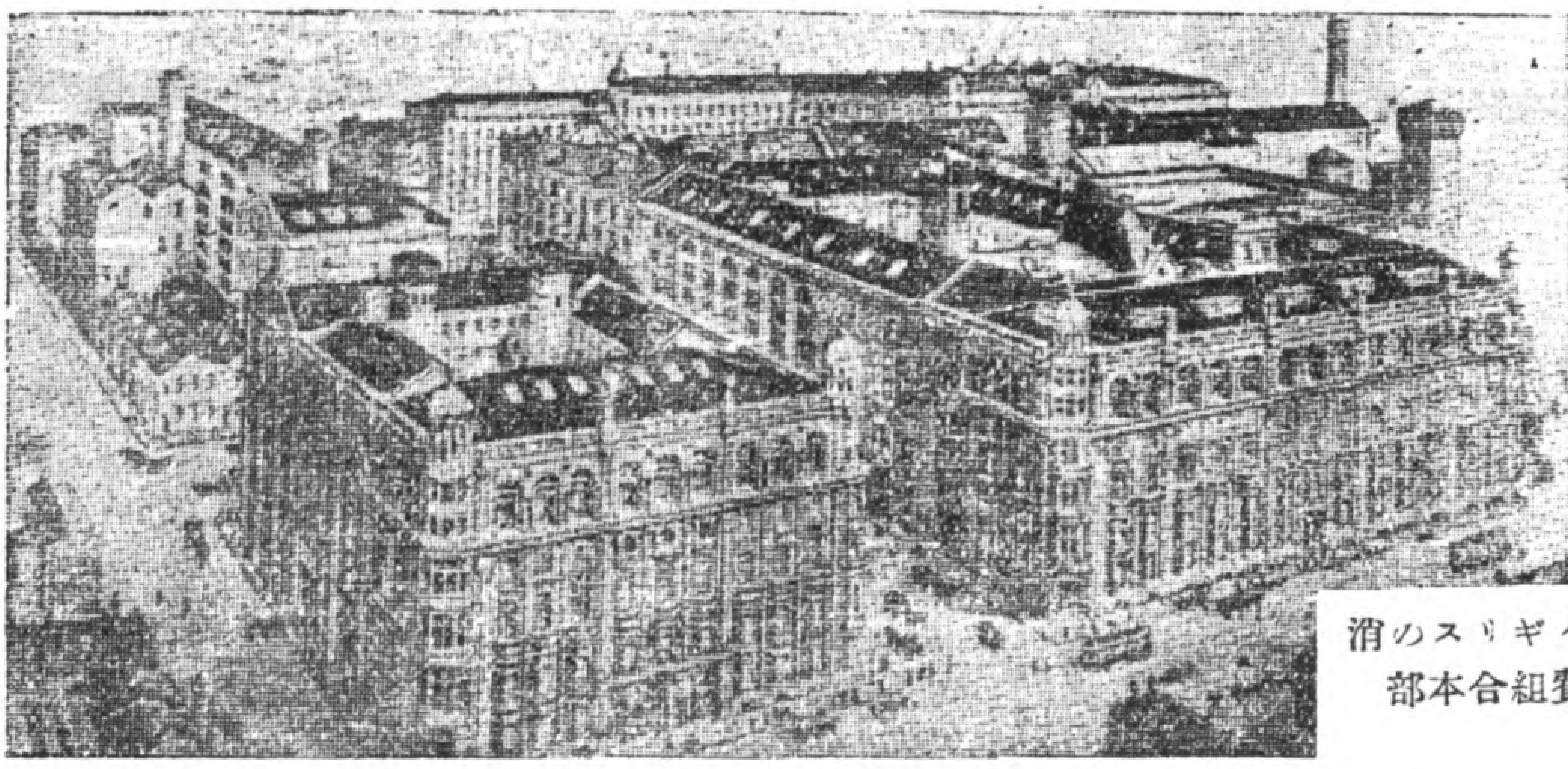
國産愛用運動でよく引合に出されるのはイギリスだ。イギリスの紳士淑女は Made in England といふレッテルがないとなかなか買はない。多少自惚が强いせいもあらうが、大體自國品が優れてゐるといふ事を信じてゐるからであらう。さうした自信を有てない日本人には、國産品奬勵は、せいぜい大賣出しの廣告位のところであつて、たとひ名士の夫人令孃が、マネキンになつて街に立たうとも、よい物はよいが、惡いものは惡い。況んや大多數の民衆にとつては何を買ふべきかの問題ではなくて、言ひ換へれば、時計はナルダンを止めて精工舍にしようとか、ペンはオノトを止めてパイロツトにしようとか、選擇上の問題でなく、日毎の糧と粗末な綿服とに追はれつきりの狀態である。

◇

大體國産運動などの對象になつてゐるのは決して一般の民衆ではない。大多數の農民と、勞働者とは、日用品の選擇、しかも國産か舶來か等のことには全く關與せず、また關與する必要もないであらう。米に味噌と醤油とキヤベツとに、收入の大部分が支拂はれてゐるとき、どこにそんな問題が殘つてゐるだらうか？ 況んやその日常の糧に支障を生じてゐるとき、自動車、洋服地、美術品を國産に極めやうとする運動が、そもそも皮肉以上の何物であらうか？

◇

國産運動は全く沒落期資本主義のカリカチユアだ。これに動員される婦人團體、教師、女學生は氣の毒なものだ。それは自ら眞面目なことをしてゐる積りで、しかも噴出させる喜劇を演じてゐる氣の毒さだ。序のことだ、思想國産、道德戀愛國産等々と此の運動を推進させるならば、喜劇はまさに大成し終るであらう。われわれは、現代政治家の頭腦が必ずや、それを成し終る日のあることを、微笑しつゝ信ずるものである。（廣瀨庫太郎）



イギリスの消費組合本部

國際消費組合デー來る！

七月第一土曜日は、國際消費組合デーであります。この日消費組合運動者はいろいろな催しを行つて組合の仕事の宣傳をなすと同時に、社會運動における消費組合主義の勝利を廣く世間の人々に宣布するのであります。

消費組合の仕事は、ものゝ買手である女に最も關りの深いものであるに拘らず、長い間男子ばかりの手でそれが行はれてきました。やつとこの頃、熱心なる婦人が組合の仕事に參加する傾向を著しく示してゐるのですが、ずつと男子の開拓者に依つて捧げられて來た消費組合への大きな犧牲に比べたら、女はもつと〱奮闘努力しなければならぬと反省させられます。

一八四四年、二十八人のフランネル職工に依て初めて消費組合の店が――平等開拓者組合といふ遠大な目的を示す名で開始されたとき、貧しい彼等は一週に二片（凡そ八錢）宛の據金にさへ窮して、或人は家具を賣つた、煙草をやめた、又或人は妻のペチコート（下袴）をさへ質に入れて、やつとその義務を果したと傳へられてゐるのに、彼等は全く無報酬で一日の勞働を終へたあとの、僅かの時間を働き合つたのでありました。二十二年間終始一貫奮闘して組合から與へられたものはたゞ洋服の袖口の破れを防ぐための小さなカバーだけであつたといふのであります。

私たちは開拓者たちの、このやくやうな理想と、燃えるやうな信念を自分の内にももつて、たゞに「生產者から消費者へ」直ちに通ずる道を切り拓くばかりでなく、賣る生活と買ふ生活を通して、複雜に作用しあつてゐる營利社會のカラクリを根底から改めてゆくための社會改造に、消費組合を通して邁進したいと念じます。

郊外に理想社會を求めて

成城學園消費組合　神　琴子

武藏野の一角、未だ何ものにもけがされない櫟木林を伐り開いて出來上つたこの住宅地、こゝこそは、われ〳〵の理想鄕として、あらゆる方面に理想的施設を持たうといふ意氣込みで、大きな犧牲を拂つて移り住んだわれ〳〵であつた。

かういふ計畫にあつては、吾々の生活の基調をなす物質生活の快適といふことが第一要件であらねばならぬ。然るに、いはゆる新開地といふものは兎角不良商人の食ひ物にされ勝ちである。それ故、消費組合の設立といふことは、われ〳〵の實際生活から起つた切實な要求の一つでもありまた將來の生活の核心をなすものでなければならぬと確信してゐる。然し當時にあつては、家數の少ない事、中心人物の無い事で實現の可能性がなく、僅かに一二回問題になつた丈で立消になつた。其處へ家庭購買組合がこゝまで配給の手を延して來た。早速加入しようといろ〳〵調査の材料を集めはじめた。ところが間もなく東京共働社が豪德寺へ支部を設けたので、兩組合の比較研究をすることが出來た。經營方針、從業者の態度、組合員の有樣、取扱品の價格等すべてに東京共働社の方が私の氣持にピツタリ來たので、私は躊躇することなく共働社の方へ加入した。

前にも言つた通り、今後の吾々の生活は組合に依るのでなければならないといふ信念から、手近い處から組合精神の普及を熱心にはじめた。然し特定の消費組合に對する勸誘ではなかつたことを特に斷つておく。共鳴する同志が續々現はれた。

ある日、突然組合員獲得運動に熱中してゐた家庭購買組合幹部の或夫人から、或集會の席上へ呼び出しを受け、何か家庭購買組合に對して、對抗運動でもしてゐるといつたやうな口吻で、直接關係の無い人の面前で、さん〳〵侮辱

的な詰問を受けた。夫人には何も具體的材料があるわけではなかつた。ヒステリカルな妄想によつて、神經をたかぶらせてゐるに過ぎないのであつた。

私は少くも私達の周圍の人達だけでも一人殘らずが消費組合を利用するやうに、どの組合にでも加入して少しでも早く住みよいわれ〱の世界をつくらねばうそだ。それにはたゞ家庭の婦人が一寸目が醒めればもうそれで立所に其大きな仕事は出來上るのだ。だから一人でも早く、一人でも多く組合精神に目醒めて來ることを望んでゐたのです。それ故消費組合運動者の中にかういふ資本主義的精神を以て仕事をしてゐる人もあるかと、唯呆然として引き下つて來た。

それからもいろ〱形を變へて同じやうな事が繰返へされたが、かへつていろ〱の方面から私に同情が集つて來た。組合員は續々增へた。

兼ねて組合界の懸案であつた鮮魚と野菜の配給を消費組合聯合會が移動店舗によつて行ふことになつた。成城學園住宅地で始められたのは、本年二月の下旬であつた。

高臺はまるで旋風にでも襲はれたやうであつた。八百屋も、魚屋もそれから三月ばかりは全然商賣がなかつたといふ。以前から私の家の玄關前に組合の米袋や炭俵が毎日盛んに積み下ろされるのを見て、素人が寄つて何か始めてゐる位に思つて白い眼で見下してゐた商人達は、俄かに色めき立つた。それよりも狼狽し出したのは例の夫人であつた。それでも表面は山の如く靜かであつた。

幾日かたつた。或日〇〇會の代表者といふ雜貨商、八百やの某と二人が突然私に會ひに來た。消費組合があゝした方法で組合員外にものを賣るのは違法ではないか。といふことをわざ〱言ひに來たのであつた。

あなた方商人が、いろ〱な方法で商品の廣告をするやうに、消費組合もまた、何らかの方法で一般の人達に呼びかける必要がある。あの催はその一つであつて、いふまでもなく、あれは組合員に配給するのが目的である。あの移動店舗をやるについては豫め合法的な手續がとつてある筈だ。貴下方は何の爲に私にそうした事を云ひに來たか知らないが、私は單なる一組合員に過ぎないから聞き度い事があるなら本部へ行つて組合長に聞いて來るがよい。

私はあつさり受け流した。其處へ組合員の或奥樣が見え

たので出て行くと、それを聞いたその方は『商人があなたばかりを困らせるなら皆でボイコツトをしませう』とわざと大きな聲で云ひ乍ら歸つて行かれました。薬が利いたか二人でボソ〳〵言つてゐたが急に暇を告げて歸つて行つたのは笑止であつた。

消費組合が何んであるか知らない人達が、組合員外に賣る事が違法だなんていふことを知つてゐるのは面白い。

其事があつてしばらくたつて四月十六日の移動店鋪の日であつた。八百や菜は、土地の商人悉くを應援として、移動店鋪に隣り合つて、こちらの店先を半ば以上も塞げ、道路に葦簀張りの店を張つた。ヤケ酒を煽つて悽じい元氣である。それに恐れをなしたか、そちらに行かれた奥樣も大分見うけられたが、元値を切つてゐたのださうだからなまなか賣れた丈さぞ損をした事であらう。

然れども嚴然たる事實の前には誰も頭が上らない。移動店鋪は理解ある人、ない人を問はず片端からこの土地の人達を征服して行つた。消費組合の眞精神といつたものは別としても、現在の市價といふものは必然的なものではないこと、もつと合理的な價格で日用品を手に入れる方法が手近にある事だけは誰にも知れ渡つた。組合員は日々に殖えた。遂に成城にも支部を置かなければならない時が來た。支部が出來る！　吾々の支部が出來る！　受難の時代が過ぎた。吾々の世界が來た。と皆が喜び勇んで店鋪の借入に奔走し始めた。

家は方々に空いてゐる。然しいよ〳〵決めようといふ間際になると皆駄目になる。土地の商人達の〇〇會といふのが吾々組合に對して共同戰線を張るとの申合せをしてゐるのである。處が直接大きな影響を受けたのは肴屋と八百やと酒屋とであるから、中にはくすぐつたさうな顔をしてゐる連中も少くないのである。それは兎に角、借家が駄目なら地所を借りて家を建てようと云ふ事になつた。矢張り駄目だ。遂に組合も決心した。地所も買ふ。家も建てる。といふことになつた。さあもうこつちのものだ。四月二十三日から移動店鋪は組合の地所ではじめた。こゝは商店街から餘程離れてゐるので、商人達への氣兼もなし、今まで遠慮してゐた人達までやつて來る。互に結束し合つてゐる筈の商人達の中からも裏切者が出て來る程の目醒しい繁昌振りである。

消費組合婦人の活動

すると或日のこと、すぐ後の駐在所の巡査が變な男を連れてだしぬけに怒鳴り込んで來た。而も店の最も立て込んでゐる時刻なので、皆呆氣にとられてゐる。ついて來た男はこゝの魚商組合聯合會の副會長とかいふのである。警官が職務の執行にこんな男を連れて來るといふのはどういふものか。

移動店舗の係の者が、これは消費組合が配給を行つてゐるので、營業をしてゐるのではないと說明しても巡査には分らない。止むを得ず駐在所へ行つた。例の男も先廻りしてこゝへもついて來てゐる。そこへ警部補といふのが出て來て同じ事をいふ。辯明をすると吾々は命令によつて動いてゐるだけだから、そんな事は知らんといふ。そして消費組合が腐つた魚を賣つてゐるのはけしからんとまで云ひ出した。處がこの『腐つた魚を賣つてゐる』といふ流言が前から一部の人の間に行はれてゐて、而もその出所さへ判明してゐるのであるから笑止千萬である。

こゝで巡査の云ふことを約言すれば、『食肉販賣取締規則の適用を受ける事』といふのである。

こんなことは少しでも利潤を多くして懷を肥やさうとする商人と違つて、警察の目を誤魔化したり設備費を儉約したりする要はないから言はれるまでもなく組合自身進んでやるべき事で、現に皆手續中、もしくは準備中であつたのである。たゞその實現まで僅かの期間があつたので其形式上の欠陥が彼等のつけ目だつたのである。

一週一回の移動店舗が月、木の二回になつた。組合員の熱心が更らに今一回増すことを要求してゐる。

この頃では駐在所の前を通ると巡査はプイと横を向く。一時顏を見ると横向いた八百屋が時々取つて付けた樣な愛想笑ひをする。例の夫人からも一向呼び出しがなくなつた。

「職業婦人の家」の募金について

「家」の募金を大分長い間怠つてゐたことを何とお詫びしてよいでせうか？ 私の怠慢にも拘らず變りない心でポツ〳〵ご貯めてはお送り下さつてゐた方々のお心を私は、自責と淚ぐましい感激に慄へて、頂いて來てゐました。

私が今、新しい元氣をもり返して第二期募金に入つたこをどうぞお喜び下さい。今年ぢうには必ず成果を收める意氣込みでかゝつてゐます。

東京に於ける職業婦人諸嬢のために、よい「家」が建ちます樣尙一層お助力下さいませ。（奥むめお謹んで記す）

私どもの消費組合

武蔵野消費組合　江口孝

私どもの武藏野消費組合は、昨年の五月に生れ、即時に關東消費組合聯盟へ加盟しました。したがつて階級的な立場を守る消費組合であることはいふまでもありません。事務所は東京市外吉祥寺の、井の頭公園の入口にあります。

始め組合員は五十名しかなく、賣上げも五百圓程度でしたが、一年たつた今月では組合員は百十名となり、賣上げは千五百圓を越してをります。

大體、この附近に住む人は殆んど知識階級なので、消費組合といふものについて解りがよさゝうなものですが、事實この一年間に於ける、經營、教育宣傳に費した努力は容易なものではなかつたのです。

確實な組合員を得たいために、個人勸誘の方法で出かけました時の私の經驗だけを省みても隨分いやな事が澤山ありました。例へばあそこの奥さんなら解るでせうと思つて話しても、歩合を貰つてやつてゐる保險の勸誘員かミシンの外交と同じやうに視られたり、お話は大變結構ですと受入れて置いて、居合せた他家の奥さんに「一錢や二錢のことで、度々お米屋をとり代へるやうな××さんはいやですわね」といつて、「では組合へ入つて下さいますか」といはふとする私の口を押へて終ふやうなことをする人もありました。そのくせにこの奥さんは二階へ置く二人の下宿人を近所の人には「うちの書生が、うちの書生が」とまるで食客のやうにいつて歩く人です。かういふ風な虚榮心ばかりの人が隨分ゐるので、不愉快なことがたび〳〵あります。

それに又、旦那さんが直ぐに入りますといつても、奥さんは仲々入らないのであります。奥さん方が少しでも臺所を合理的にやつて行かうと思へば、消費組合へ入るのが當然なのです。新じやが芋といつても、日の立つた赤茶けたものを一皿十錢で八百屋から買ふよりも、裏の畑でお百姓から堀りたてのつや〳〵したものを十錢買へば、新聞紙で包み切れない程くれます。作つた人から使ふ人へ、生産者から消費者へ、質の好いものを安く買入れるそのことが消費組合の原則であるのに、何故話しても話しても解らないのでせうと、はがゆくなることがあります。

又、奥さん達が少しでも社會的な關心をもつて動かうとする時、自分の臺所をそのまゝ押し擴げた消費組合の運動、そして又、それによつて自分達無産階級解放運動に參加し

消費組合婦人の活動

ようとするこの消費組合の運動くらゐ、一番取つゝき易く入つて行き易いものはありませんのに、組合加入の出資がいやなのでせうか。それとも御用聞きのお世辭が氣に入るのか、盆暮の手拭が欲しいのか、なか／＼私達の言葉に耳を貸しません。然し、そのお世辭と手拭の代りに、着色した鹽水をうんと混ぜた、醬油や、目方の足りない砂糖を、賣りつけられてゐるといふことには、とんと氣がついてゐないのです。

私どもの消費組合では、この二月に婦人部が出來ました。月一回婦人部會を開き、組合で取扱つてゐる仕入品の品目、品質、値段、その配給の實狀について盛んに批判し合ひ、それを主婦の注文として理事監事會、經營部會へ出して組合の內容をよくすることに努めてゐます。婦人部が外へ向つて働きかける講習會、即賣會、その他いろ／＼な計畫も立てられてゐるのですが、今のところは組合の內容をよくするといふことに全力をあげてゐます。婦人部が出來ましてからは、組合よりも△△屋が一錢安いからといつて△△屋から買つた奥さんも、一錢安いものゝ品質と目方に、疑念を置く心がまへが出來るやうになりました。一方、組合の仕入に理解と配慮を持つやうになつて、安心して組合の物を使ふやうになると同時に、あくまで私たちの組合を守り、私たちの組合を好くしようといふ氣持を強く持つやうになつて來ました。ですから、婦人部が出來てからは賣上げは增し、月末の集金がよくなつて組合がめき／＼發展して來たわけです。

この意味で班會も開いてゐます。

この他婦人部は借地借家料値下げ運動にも總動員で、ビラ撒きその他の仕事に活潑に活動しました。そのため吉祥寺の家賃も地代も相當値下げが出來ました。

組合の後援で立候補した家屋稅調査委員野村愛正、田中留吉兩氏の選擧運動の時にも、婦人部が盛んに働きました。そして野村さんも田中さんも當選しました。そのうち電燈料値下げも婦人部が手傳つて始めようぢやありませんかと云つてゐます。かういふ經濟運動には財布を預かつてゐる主婦が出て行かなければほんとうの強いものにはなりにくいやうに思はれます。

私どもの消費組合ではこの一月の總會に十六名の理事監事のうち三名の婦人理事を選びました。やがては、姉妹組合の落合消費組合が奥さん方ばかりでやつていらつしやるのを、だん／＼と見習ひたいと思ひます。

吉祥寺へ消費組合が出來ましてから、ボリ放題にボッてゐた市價がぐゝと下つて、町全體の人々が大層暮しよくなつたといふ事です。このこと一つだけでも私どもの組合は社會的に大きな役割をしてゐると思ひます。

消費組合とは何か？
及びその現在と將來

消費組合はもと購買組合と稱して、三十三年以來わが國にも行はれて來てゐるものであるが、購買組合從事者が大てい共同購入と原價主義で、ものを安く買入れることだけを目的としてやつて來てゐるに反して、消費組合は、大體同じやうな仕事をするに拘らず、わざと購買組合といふ在來の名稱を用ひず、そこに獨特の存在を認めさせようとしてゐる點こゝに注意を向ける必要がある。

即ち消費組合は、日用品の共同購入だけを目的にせず、進んで、社會改造運動として、今日の資本主義社會を根底から建て直してゆかうとするものである。今日の社會ではものを生産する人も、販賣する人も、決して、人々の必要をみたすためにこれを行つてゐるのではない。みな、金儲けのため、營利を目的として行つてゐるにすぎない。今の社會が人間の生活を不平等にし、不幸にしてゐるのは實にこのまちがつた組織の上に社會の一切の活動が行はれてゐるからである。だから消費組合は、商人がしてゐるやうな一切の營利主義行動を排して、決して金儲けのために事を行はず、同時に、社會改造といふその遠大な目的を少しでも早く實現するために、理想への備へを怠らず、進めてゆかうとするのである。

今から八十六年前、ロッチデール(英國)の職工に依つて初めて揭げられた消費組合の理想は、今日世界の消費組合運動者がとつて以つて自分の不變の理想として遵奉してゐるところであるが、それは次のやうである。

一、販賣は絕對に現金制のこと。

二、賣價は、一般の小賣相場とし、決して廉賣をしないこと。

三、出資金に對して年五分の利子をつけること。

四、組合に利益(これを剩余金といふ)あるときは、各自の買上げ高に應じて配當をすること。

但、配當金は五磅に達するまでは組合で保管しておき、五磅に達したとき各自の出資金として書き直すこと。五磅以上の配當金は希望に依り出資金にまわしてもよし、現金にて拂ひ渡してもよし。

五、組合に積立てた利益の一部を、組合員の教育資金にあてゝて有効に働くこと。

六、從業員の過失に依り組合へ損失を與へたときはその人が辨償すること。

七、組合に對する發言權は出資金や買上高の多少に拘らず組合員はみな平等一人一票主義のこと。

そして、行ふ仕事は次のやうに大きな目的

と抱負を有す。

一、食料品や日用の雑貨を販賣する。

一、組合員のために住宅を建て、又、購入して使用に供す。

一、組合員中の失業者又は賃銀低下で苦しんでゐる人を收容して組合で必要とする諸物貨の生産加工をする。

一、土地を購入し、又かり入れて組合員中の希望者をして耕作させ、農作物をとる。

一、成るべく早く、生産、分配、敎育、及び政治の力を整へること、即ち組合員共働に依つて利害を一にする自立的自治國を建設すること。他の組合がかういふ國内植民地を作ることを助けること。

ロッチデールに初めて消費組合の芽ばへが育てられたとに依つて明らかな如く、世界の消費組合運動の淵源は、實にイギリスにある。今日ではドイツ、ベルギイ、フランス、ロシア、オランダ、イタリー、デンマルク、スカンジナビア、オーストリア、日本等全世界に擴がつてゐるが、中でもよく發達してゐるのはイギリスである。その所屬組合員五百八十八萬五千人は、全人口の五割に當る。但しこれらの國々の中で、消費組合の仕事に二つの潮流があることを見逃してはならぬ。即ちイギリス流―ロッチデール式―と、ロシアベルベイ流―モスクワ式―との二つである。

即ち、イギリス流の消費組合は、政治的に中立性をとつて、組合員が政治上どの政黨に屬しやうと自由であることにしてゐると同時に、主力を消費組合の經濟行動に集注してそこから社會改造の道を確立してゆかうとするのであります。これに反してロシア、ベルギイ流とは、消費組合がはつきりと政治的立場を明かにして、例へば、ロシアの消費組合は共産黨の支配と援助の下にある如き、ベルギイの消費組合が勞働黨の支配下に立つて相互に援け合つてゐる如きである。

即ち、ベルギイでは消費組合に加入するためには勞働黨員でなければならず、勞働組合の組合員でなければならないことになつてゐる。だから、消費組合の店舗の上に、勞働黨の事務所があり、勞働組合の本部も同居してゐて、そこは、勞働者のために社交倶樂部であり、公會堂であり、圖書館であり、又學校であり、カフエでもあるやうに出來てゐる。―これを人民の殿堂と稱す。組合員數二十八萬六千五百人は、全人口の一割八分にあたる。

ロシアの消費組合は革命と共に急激に發達したものであるが、それは、レイニンが、消費組合を以て、資本主義が殘して行つてくれた唯一の財産だとして、これを援け利用し克服して革命當時の食糧配給機關としたのに依る。然し、新經濟政策を實施するやうになつてから、再び消費組合は共産黨から離れ、自由加入制に戻つたのであるが、政府の方針がこれに依つて個人商人を壓迫し、階級闘爭に役立てようとして特別の便宜をはかつて助けてをり、又、消費組合の代表者は政府の經濟計畫の立案にも參加してゐる程であるから、事實上、政治上の立場は明瞭である。その組合員三千三百五十三萬一千七百人は、全人口の六割にあたる。

消費組合運動の新開拓地日本は、今、イギリス流消費組合とロシア流との二つが存在し二つとも微力幼稚なものである。どちらがよいか、とは盛んに論ぜられてゐるところであるが、社會狀勢とか、國民生活のありやうなどに依つて正しい認識が大事である。（敏子）

生絲繭の暴落の原因と其影響

山田秀雄

私はつい先日群馬縣に旅行して來ましたが、御承知のように、その地方は養蠶業の大變盛んなところであります。丁度時期が春繭の取引さるゝ頃でしたから、行く先々で今年の繭の安い話を聞かされました。このまゝでは百姓は繭の中に埋れて死んでしまふといふ言葉は言ひ過ぎではないようです。昔でしたら、早速殿様から御救米が出ることでせう。併しこれ程、繭が暴落して、農民をいよ／＼困難の谷底へ突き落させながら、何故に、こんなことになつたのか、知つてゐる人の少いのに驚きました。單に世の中が不景氣になつた爲だからと言つて、何か不可抗力のように考へてゐるように見受けました。果してさうでせうか。

成程不景氣には違ひありません。併し不景氣にも色々あります。例へば日照りで米作が非常に惡くなつた爲とか、又は關東震災のためのように、人の力でどうすることも出來ぬ、それこそ不可抗力による不景氣もあります。併しかゝる天然自然の業でなく、世の中の治め方の惡いために原因する不景氣があります。例へば徳川末に、各藩の財政が紊亂し、ために年貢米をウント納めさして、百姓を困らせた爲めに出來た不景氣もあります。そんなら、今度の不景氣はこの何れに依るかと申しますと、殆んど現内閣の惡政の結果と申して差支えありません。

現内閣の惡政の結果と申しますのは、云ふまでもなく金解禁の結果であります。いま迄金の位が八であつたものを十に引上げた。そのため物の價は、いままで十であつたものが八

に下つたのであります。御覧なさい。暴落したのは繭だけではありません。鐵でも、肥料でも、綿絲でも、何んでもかでも下つてをります。就中生絲の暴落は目に立ちます。生絲が安いから繭が安いのであります。こゝを考へねばなりません。普通でしたら、繭が案外にたくさん出來たゝめに、生絲が安くなると云ふのが原則です。併し今年は生絲が安いから、製絲家は、今年の生絲で損をしないため、繭をたゝき落して買はうとするから、繭が下るのであります。ですから生絲の安いと云ふことは、二つの大損害があります。一つには生絲の安いことそれ自身による損害と、二つには繭の安くなるために受くる損害であります。

生絲は御承知のように、我が國の中樞産業であります。換言すれば金櫃であります。例へば、これを貿易の上から見ますと、昨年の我が輸出總額は二十一億四千八百六十一萬九千圓でありましたが、其中生絲の輸出額は七億八千四萬圓、即ち、總輸出額の三割一分餘を占めて居ります。一つの品物でこれ程の輸出に上るものは外にありません。ところが其生絲が昨年の夏頃から急激に下りだしました。いま横濱生絲の先物相場を見ますと、左表の如く三月から、百圓百斤當りを割つて五月の最低は八十八圓二十錢となつてゐます。六月には八十圓も割れました。こんな安い相場は歐洲戰爭以來始まつてありません。歐洲戰爭前には六十圓臺がありましたが。この調子ならそこまでゆくかも知れません。假りに八十圓で下落がとまつたとしましても、昨年の上期平均値段百二十三圓見當に較べますと四十三圓即ち三割五分弱の値下りであります。

横濱生絲先物相場表

	最高（圓）	最低（圓）
四年 一月	一三七・六	一三四・四
二月	一三九・〇	一三六・六
三月	一三七・七	一三二・一
四月	一三五・五	一三二・九
五月	一三三・四	一二九・〇
六月	一三三・二	一二九・九
七月	一三一・二	一二四・五
八月	一三一・六	一二五・九
九月	一三五・七	一二九・四
十月	一三〇・七	一二五・三
十一月	一二五・五	一一八・一
十二月	一二〇・九	一一四・四
五年 一月	一一八・〇	一一二・二

二月	一一六・七	一〇九・四
三月	一一二・四	一〇五・八
四月	一〇九・五	九九・六
五月	一〇三・五	八八・二

いま今年の輸出生絲の値段が昨年に較べ三割の値下りとし、數量は昨年並としますと、前記の昨年の生絲輸出額七億八千一百四萬圓の頭では二億二千四百三十一萬二千圓の減少となります。實に大きい金額ではありませんか。二億圓以上も外國から受けとる金が減ると云ふことは大變なことです。

　こんな生絲の暴落を來したのは、前に申しましたように、現内閣が金解禁をやつたからです。世人にはなにか金解禁をやつたのは、大變よい事をしたふうに誤解する人もあります。事實政府でもさう云ふ風に宣傳し、殊にこの春の總選擧には、それを旗印としてゐました。ところがあにはからんや、その金解禁と云ふ藥は、日本と云ふからだをよくするどころか、生絲だけでも右のやうな大打擊を與へ、而かもその餘病は、いまや農民に、繭安となつて現れて、大變な目にあつてゐる譯です。

　第一金解禁をやつた時期がよくありません。御承知のように、金解禁を聲明したのが、昨年の十一月、實施したのが本年一月十一日でありますが、その時期は丁度、製絲家がシコタマ生絲の在荷を持つてゐた時です。それが百斤當り三十圓も四十圓も下つてはたまらない譯です。とう〳〵製絲家や問屋や、銀行が政府に泣きこみました。そこで政府はその申請を入れて、この春絲價安定融資保償法と云ふ法律を出して、もし銀行が生絲を擔保として金を貸しても、一梱千二百五十圓を下がつた爲め銀行が損をした場合は十五梱に限り、政府が損失の責任を負ふと云ふことにしたのです。この法律が出ましたから、製絲家や問屋はこれ幸と、銀行に運びこました。ところが、その後の生絲の價格は前述の如く大暴落しましたので、政府が損失を負ふことになりました。その損失がザツト五千萬圓と云はれてをります。この損失した金はどこから出ると思ひます。結局國民の血であり汗である税金であります。即ち政府は金解禁と云ふことをやつて國民に大損害をかけてゐますが、併し製絲家や銀行家の損は或程度まで、而かも國民の税金で尻ぬぐひしてやるのです。これでは中以下の國民は踏んだり蹴られたりです。つまり、資本家本位の金解禁であつたのです。

　中には政府が金解禁の時期を本年一月にしたのを、餘程農

民のためを考へたように誤解する人があります。と申しますのは、前述の如く、その頃は農民は繭を賣つてしまつた後であるから、生絲の値下りの打撃は輕くてすんだように思ふのです。成程時期としては製絲家にとつて悪い時期でした。併しそのため受けた損失の一部は、政府が尻ぬぐひしてやることにし、一方製絲家は今年の生絲で損をしないため、今度は春繭を出來るだけ安く買ふことにしたので、繭が未曾有と云つてもよい程暴落したのです。ですから、矢張り金解禁の影響は結局農民の頭の上にふりかゝつて來たのです。自然のなせる不可抗力でもなんでもありません。現内閣の政治的責任であります。

尤も世界の不景氣、就中生絲にとつては、その大買主である米國の不景氣も手傳つてゐます。井上藏相は、機會あるごとに、生絲の下落したのは、金解禁のためでなく、米國の不景氣のためと辯明してゐます。それも或程度までは事實ですが、併し、藏相の如く、大部分の責任を米國の不景氣に歸するのは白を黑と云ひくるめるに等しいのです。と申しますのは、最近農林省調査による昭和四年度（昭和四年六月より五年五月に至る）に於ける米國の生絲消費狀況を見ると分ります。次の如くであります。

	四年度	三年度
総額	六〇四、〇〇一俵	五八四、七〇六俵
日本絲	五〇二、四三九	五二二、八三五
其他絲	一〇一、五六二	六一、八七一

これによりますと、米國の四年度の生絲の消費高は三年度に比し、一萬九千二百九十二俵増加してゐます。即ち、米國は生絲の需要は殖えてゐるのです。然るに、日本絲はこの間二萬三百九十六俵減つて居ります。その代り、例へば支那だとか、その他の外國の生絲が三萬九千六百九十一俵殖えてゐます。藏相は米國が不景氣で生絲の需要が少いため、日本生絲が賣れないと云ふのは、事實を無視した説明であります。然らば何故に、米國に於ける日本生絲の消費が減つてゐるかと申しますと、これは色々理由もありませうが、矢張り、日本が金解禁をやつて非常に不景氣になつてゐる。だから米國から云へば、日本絲は先で安く買へると見てゐるから、商談を延してゐることも大きな原因と思はれます。さうしますと、米國に日本生絲の賣れないのも、結局日本が金解禁をやつたからだと云ふことになります。

斯う見て來ますと、現内閣が金解禁をやつたと云ふことは、生絲にとつては最も大きい打撃を與へた譯です。その打撃の最後が、いま繭安となつて農民の双肩に負はれて來たことも分ります。その重荷が今後どこまで加重することかと考へると、思ひ半に過ぎるものがあります。



胴巻のダイヤモンド

大竹せい

レニングラードの大學から、日本歴史の研究に來たBが一年半の豫定の滯在を了つて、なつかしい祖國をさして歸つて行つたのはつい最近である。

うら羞かしい學生あがりの娘であるBが單身、唯一の日本に於ける女友達の私をたよつて來朝したのは、昨年の正月の松も漸くとれた頃であつた。かつて、彼女の父母兄弟の賑かく溫かい家庭に私が客となつてゐた頃、彼女はまだ十七歲のからきしの子供であつた。それだのに、日本へ來た彼女は、容貌までも整つた美しい娘になりきつてゐた。

折から病床に臥してゐて出迎へにも行けなかつた私の部屋へ、いきなり彼女が入つて來た時には、思はず兩方で涙が湧き出てとめどがなかつた。よく來た！　ほんとに一人でこんな娘がよく來た！　私は抱き拘えて頰ずりした。ストーヴは焚いてあつたが、ベッドは間に合はないので、彼女は私のベッドのそばのじうたんの上へ布團を敷いてその晩はまづ横になつた。けれども二人はとても眠るどころではない。萬感交々で話から話、噂から噂、私は次から次へと追憶の絲を延ばして、問ひたいことを連發した。

あの頃のソヴエット聯邦國の貧しい生活――六階にある彼女の家は、嚴寒だといふのにスチームも碌々熱くはならなかつた。みんな家の中だといふのに毛のヂャケツや冬外套を羽織つてゐた時もあつた。便所の水なども流れたことがないので時々容器で水を運んで流すのであつた。學校でも小さな子供達は、零下十五度になると課業を廢したものだ。リフトも動いてゐないので、六階からこつ〳〵歩いて下りるのだから、買物も散歩も日本人の私のためには極めて臆劫な生活であつた。大學教授の家庭である彼女の家でも、食物は僅かの肉とぢやが芋が主であつた。ほんの少しのかく砂糖を惜しさうにかぢりながらお茶を呑んだ。着る物に至つては勿論ひどいもので、派手やかなものなどは見られない。贅澤品は輸入禁止

で、もし存在すればそれは密輸入品であつた。行人も物體もすべて灰色の街である。ネブスキープロスペクト——名にしおふペトログラードの銀座ですら、商店は齒の拔けたやうに締め切つてあるのが多かつた。——これは革命後六年目であつた。しかし、いま彼女が入つて來た風采を見ると、まさしくそれはレニングラードの色彩であつた。破れかけたアストラハンの小さい衿、いゝかげん毛の摺り切れたラシャの冬外套なのであつた。帽子は、色あせたもゝいろのまがいものゝフエルトであつた。持物は、父親ゆづりの古くさい鞄が一つ、着換へといへば、メンネル縞物の褪めはてたのが二枚、外出しようにも、お客に行かうにも、こゝはレニングラードでない不便さ。彼女は翌日から着る物の相談をしかけた。起きてもまだ熱のある私が彼女を案内して中央へ買物に行かねばならなかつた。やがて黒いスカートと富士絹のブラウスだけを縫ふために、塵だらけのミシンが活動しはじめた。

留學生としての彼女の大學から送られる金は僅少で、しかもそれが不定であつた。彼女が着いて夜通し私と語つてゐた晩、彼女が體をもたげて變な格好をするので何事かと思つて見てゐると、やがて自分の腹の邊りから長い紐の樣なものを引張り出した。よく見ると、たゞ細いだけで日本の胴卷の類である。昔の五十三次の旅人が、胴卷に金を入れて歩いたのを、文字どほりイジンの彼女が實行してゐるので、私も微苦笑してしまつた。その細長い紐のやうな胴卷の中には、大きなダイヤモンドが二粒縫ひ込んであつた。金のうでがついてゐて立派な耳飾りなのである。「日本へ行つて金に困つたらこの耳飾りを賣つて足しにおし」——と彼女の母親が嫁入りするときに持つて來たお寶を、そのまゝ愛兒のために、この細長い紐の中へ自から縫ひ込んでくれたのであると聞いて、私はそつと涙を拭いた。

「けれども、私はどんな事があつてもお母さんのところへ持つて歸ります。」

彼女はさう言つて胴卷ごと私に預けた。

× ×

東京驛へ彼女を見送つて歸つて來た晩、私は何だか重荷をおろした、一安心と言つた氣持がした。普通の日本娘のやうに、別にたいした監督をするわけではないが、馴れるまでは何から何まで私に相談なしではしない彼女であつた。この可憐な彼女が、私の家の家族として生活しはじめると、間もなく驚いたことに、警察からやかましく刑事がやつて來た。屆け出すものは屆けてある筈だのに、何だ、かだと、動靜を探りに來るらしい。私の住む郊外の管轄署からはもとより、警視廳の外事係が二人も揃つてもの〳〵しい御入來であつた。この時は彼女は留守であつたので、私は彼女の例の汚い鞄からパスポルトを取りに立つ

た後でも彼等は、だらしなくとり散らしてある彼女の手紙類を掻き廻して見てゐたが、やがて彼女の荷物全部を見せろと言ひだした。

「彼女はいま留守だから、私にはそれは出來ない。彼女の來た目的は、日本歴史、特に德川史研究に來たのだ」――といふことを、私はくど〳〵と言つた。

だが、私は鞄の中全部を彼等に見せてやつたらさぞ痛快に面白かつたらうと、彼等が歸つて行つた後で思つたことだ。何故なら、彼女の鞄の中は、メンネルのカスチウムと、ながい旅でよごして來た下の物の洗濯ものばかりだつたから。

食物に馴れると同時に、彼女は日本語がステキに上達してしまつた。もつとも故國の大學と東洋學院とで六年間日本語はやつて來てはゐたが……。避暑に行つては田舍のべーべー言葉を覺えて來る。關西へ行つて歸れば「おます、さかえ」を連發する。電車やバスの交通機關にも委しくなつて、田舍に引込んでばかりゐる私を引廻してくれる。繁華な交叉點などを横切る時には、

「大丈夫か……死ぬナ」――これは中學生あたりから覺えたらしい――などゝ私の腕を持つてくれたには、ダンゼン目をシロ・クロしちまつた。

「日本人になり切つてしまつたが、ついでに日本で結婚してはどう?」

と、ある日私が冗談半分に言つたら、

「日本はあまり女のために法律が不便です」

と、こつぴどい一本をかへしてよこした。

これぢやお小手もお面も叶つたものぢやないので沈默した。

滿十八歳から男女は平等にすべての權利がもてる。法律は特に婦人には甘すぎる程の特權を與へてゐる。結婚も離婚も自由である。嫌になつたらさつさと屆ければいゝ。合意の上などゝいふまどろこしい事を言つてゐなくても、屆ければ本人の所へ通知が行くから別れるより仕方がない。おまけに別れた男は收入の三分の一を別れた妻に吸ひ取られるの義務がある。女は別れて先夫の姓を名のつてゐてもいゝ、自分の姓にしてもいゝ。また二つ續けてなが〳〵しく名のつてゐてもそれもお勝手次第。

「なんてあなたのお國の法律はいゝんでせうね」――と私が言ふ。

「でも私は、そんなに幾度も結婚するのはきらひです」――と彼女。

彼女は所謂フラッパーではない。家庭内の女らしい細かいことは嫌ひであるが、彼女は立派な學者である。

彼女は、自分の母校であるレニングラードの東洋學院の教授として歸つて行つた。二十三歳の彼女が、自分よりも大きい共産黨員、或は黨員外の男女の學生を前にして壇上に立つて、日本歴史を講ずるであらうところの風丰を描きながら、私は夜の東京驛の階段を降つてゐた。

或る苦言の一部

鈴木順一郎



新しい奥様方がよくおつしやる。

——何だつて田舎はあんなに不注意なんだらう、不衞生なんだらう！——

新しい奥様よ！

一度、百姓の細君になつて働いて見られたらその事は何よりも明瞭とお解りになるんですが……

——そんな事は勿論無理な註文です。せめて次の話をお聽き下さい——と私は意地惡い書き出しをしなければならない。

長塚節の「土」を讀まれた方は誰しも水吞百姓達の下等な心情や、悲慘な生活に可成り强いショックを感じられた事であらう。

長塚節の强いタッチや、根氣のいゝ表現は、文藝として誰も眞似る事の出來ぬ程しつかりしたものである事は漱石の序文によつても明らかであるが、今の我々には思想的に同感の出來ぬ大きな隔りがある。

「土」は明治四十年代に書かれたものだ。而して長塚節は一地主であつたといふ事だ。

「土」を讀んで行くと自から百姓に對する侮蔑の氣持が强くなる。節が文人として如何に勝れてゐたとしても、彼は明治時代の一ブルジョアである。さうした時代とさうした境遇の男の書いた百姓に對する見解には多くの點に於て我々は反感を持つのである。

「土」の作者は百姓の下等な生活や下劣な心理を忌憚なく書き下してゐるが、何が彼等をさうさせたかといふ事について

は少しも觸れてゐない。恐らくはその時代には氣の附かないのが當り前かも知れない。

併し新しい奥様方は現代の空氣を吸うてゐられ、現代の思想に多大の共鳴を持つてゐられる方々であらうと思ふ。

それが時々明治時代の作者の考から一歩も出てゐなかつたり、或はより以上古かつたりする事がある。

私が最初に掲げた新しい奥様方の述懐も、これではないかしら。

結果の狀態だけを見てその人達の無能を笑ふのは戒めなければならない。それを笑つた人が惡い結果の原因の一部を造つてゐる事がないとは言へないからだ。

或る男が女中を雇つた。初めて農村から出て來た十八の女を……

彼は思つた――何といふ小さい十八だ――實際誰が見たつて十五位にしか見えない。顏色もよくないし身丈も低い。凡て生氣がなく、十八歲といへば當然あるべき女性的な芳香といふものは何處にもなかつた。

彼は思つた――彼女は農村の疲弊を體現してゐるのだ――と。

十日間の中に彼女は女中から色々な珍しい事を耳にした。女中も主人から新しい事を敎へられた。

そして双方が驚いた。そんなに彼等の生活には懸隔があつたのである。

彼といふ男は或地方新聞の記者である。自分でもプロレタリヤであると自惚れ、勞働者の苦しい生活や貧民窟救濟のために小さなペーパーを通して自分の意見を振り廻してゐた。

併し女中が來てから十日の間に彼はすつかり自分の間違つてゐた自惚れ――プロレタリヤの一人であるといふ――を捨てなければならなくなつた。

自分の考へてゐたプロレタリヤと貧民の實狀といふものは餘りにも間隔があつたのだ。

彼女は今までに牛肉も食べた事がない。鷄肉も卵も、驚いたことには祭になつてもすしも造らないし餅も搗かないといふ。うどんも食べぬし、そばも知らぬといふ。その女の家だけかときけば、一般にその村ではさうだといふ。

子供なども藁で拵へた丸い櫃の中に入れて一日家へ置いて行く。その間によく間違ひが起る。

炬燵で燒死んだり、幼い上の子が小便をさせようとして便

所へ赤坊を落したり、數へあげたら切りがない。

——まあ田舎つて何と不注意で不衞生なんでせう！——新しい奥樣はその悲慘な語を直ぐ田舎者の無知のためと冷笑したがる癖がある。

然し新しい奥樣方のおつしやる樣に立派な神經と注意を持つてゐたら彼等は生きて行かれないのだといふ事を忘れてはならない。

如何に不安でも可哀想でもさうして畑へ出なければ彼等は生活するだけ稼げないのである。それ位にして働いても、動もすると借金が出來、納め物が滯るのだ。

上の子があれば一日中下の子を負はして置く、生長の盛んなものに生長を止めるやうなものだ。農村の女は一般に背が低い、そして早く耄老する。

彼等は文明の恩惠には殆んど浴してゐないが、文明の恐しい弊害は充分味はされてゐる。然もそれを知らない。經濟組織の大きな缺陷が自分等を締めつけてゐるのだといふ事を。

その女中は併しその貧弱な身體を携げてよく働いた。子供を負ぶつて一時間や二時間仕事をしても平氣でゐる。男はハラ〱しながらも女中の働くのを感心して見てゐた。

或る晩彼は次の樣に尋ねた。

——お前は如何して女中に出る樣になつたのだ——

——わたし、女中に來たくて仕方がなかつたので友達に頼んで連れて來て貰つたのです——

——どうして女中なんかに來たくなつたのだ——

——友達が此の市に女中に來てまして、祭で此の間歸つた時「女中つて面白い。市へ出ると色々なものが何處へ行つても見られるしの」て言ひまして……——

——色々なものとは？——

——夜でも明るい電燈が點つてゐるし、蓄音機やラヂオなんて珍しいものがあるし……いくら女中が忙しいたつて田の草とつたり、畑したりする事を思ふと何でもない。と言つてましたんで俄かに女中になり度くなつて出て來ました——

一ケ月經つた。女中は見違へる樣に肥つて、元氣もよくなり、年頃の美しさも見えて來た。

その新聞記者は考へ直した。自分等の口にする生活難と、農村の疲弊せる生活とはレベルが違ふのだといふ事——そして何が彼等をさうさせるかといふ問題について。

隷屬者であり、被支配者であり、被搾取者であるところの婦人を、凡ての被支配者階級と共に、完全に解放せんことを最終の目的とする我が「婦人運動」の同志の中に、それ自身一個人の利害觀念から、輕卒至極にも大切な、歴史の創造者であるものゝ「使命」を忘れ、自己の持場を離れて、與へられた闘爭場面から逃避しながら、しかも、それを以つて「就職難の叫びは高い」等と、あだかも「捨石」でも投げて功德でも施したかの如く納つてゐるものがあるとしたら、たとへそれが無意識的に、その人の不明がさせたとしても、決して、社會運動の一環を成してゐる我が「婦人運動」にとつては斷じて許す可からざる罪惡である。



持場を離れた逃避者に與ふ

初音よし子

我が「婦人運動」五月號に、「靜境を出でて」と題して、我々が打倒せねばならぬ資本主義の、最惡の支柱となつてゐる「ブルジョアー教育」との闘爭を放棄して、虐げられた多くの可憐な「第二の奴隷」を敵の手にムザ〳〵と渡しながら、「さやうなら」と持場を逃れ出た「臆病」至極な逃避者になりすましながら、麗高々と誇らしげに、「使命」を云々してゐる心得違ひの同志に對しては、我々は斷じて寛容であつてはならぬ。

「靜境を出でゝ」の筆者は、「いゝ先生」と云ふものゝ正體をつかんだが故に、仕事に對する「興味」がなくなつたと云つてゐるが、苟しくも、社會進化の方向を正しく押し進めて行かうと心掛けてゐるものにとつては、今日の總ての仕事が興味を以つて迎へられるものは一つもない。何故なら、それは「社會」の利害を考慮したものでなく、「個人」の利害の上に立つてゐるからである。現代資本主義社會に於ては、政治も、經濟も、科學も、宗教も、藝術も、そうだ！　教育さへも、從つて「いゝ先生」も！　凡てみな「個人」の利害を中心に組織立つてゐるのである。

資本主義制度の社會秩序の下に生活する我々は、一切萬事かゝる個人主義營利本位の下に制約せられざるを得ない。それ故に我々は「婦人運動」の如きグループを持ち、かゝる「興味」なき、個人本位の生活を揚棄して、安心立命の下に嬉々として働き得る、又生活し得る社會建設の爲めに、闘つてゐるのである。

教育と云ふ重要なる部門に於ける持場を放棄した輕卒なりし同志よ！——私は强いて同志と呼ぶ——貴女は只「職業」！　しかも「興味」ある職業に生きればそれでよいのか？　かゝる安價な「興味」を求めて歩くことが許されたら、貴女の父や母が、そして「多くの肉身」や「少數の友」更に又貴女の故郷が、「心配することはない、行かせなさい」と云たつたとしたら、貴女は「農村の虐げられた姿を凝視

し、何が彼等をしてかくあらしめるかを、專心探究することが出來る」のであらうか？

だが、しかし貴女の望みが叶つて、よしそれが出來たとしても、それは只、「凝視」し、「專心探究」するだけだ！　然り！……それだけだ「興味」を求めて逃避した同志よ！

貴女は最早、すでに、「いゝ先生」の「正體をつかんだ」人ではないか！　何を苦んで今更「凝視」し、「專心探究」する爲めに、多くの「第二奴隷」を、みすみす敵の手に渡して、己れの鬪爭場面である、與へられた持場を逃げ出す必要があらうぞ。

何故に貴女は自己の持場に頑張つて、彼等の教育に對する我等の教育を以つて爭鬪しなかつたのか。同志よ！教員から產婆に轉じたとて、現代社會秩序の嚴存する限り「ウツカリ身動きも」出來ないことは保險附である。

それを貴女は「教員なんて嫌だ」とて他に自由を求め得ると信じてゐることこそ、それ自身貴女は「現在の教育」の感化を多分に受け容れてゐるのである。我々はかゝる奴隷教育から、そしてかゝる逃避主義、個人主義から先づ脱却せねばならぬ。かゝるものとこそ鬪爭せねばならぬ。

以上の理由から私は「靜窓を出でゝ」の筆者たる同志に此の一文を捧げるものである。

陷穽を避ける

西野いく

社會運動に理解と同情とを持つ英國の一巡査が、言論を抑壓したと云ふかどで、知人である主義者に責められた時云つた。「私はあなた達の主義に贊成します。しかし、私の職業は巡査です。國家を危險に陷れる樣な言論を自由に述べさせることを、私の良心はゆるしません」同樣な言葉を小學校の教員から聞かされる事は、いさゝかも不思議ではない。

「お前の生活は我々が保證しよう。その代りお前は、我々の制度を擁護しなくてはいけないよ」かうした契約の下に成立した雇傭關係であつて見れば、それに依つて自分の生活を維持しようとする限り、被傭者は飽くまで資本主義の擁護者でなければならぬ。その仕事にたづさはりながら、無產者の味方として、色々無產者の爲に盡力する事が、絶對に不可能だとは言はぬ。がそれは、擁護者たる任務を果した餘力で、資本主義がその爲に、いさゝかも痛痒を感じない程度に於てなされねばならぬ。それを無視した者にまで賃銀を與へ、飼つておく義務を資本主義の制度は認めてゐない。

何時首が飛ぶか分らない不安におびえながらでは出來ない仕事、それがたしかに世にあると信ずるが故に、私は教員の持場をすて、より多難なるべき行程への第一步をふんだ。私は初音氏とその立場を異にする。

「所信に向つて勇往邁進せよ」初音氏に對し、又私自身に對して、私の言ふべきことはそれだけだ。

×　×　×　×　×　×

本を讀め！



おすゝめしたき本

▲ソヴエート女醫の手記

（ラルスキー著）
（西谷雅義譯）

これは革命ロシアの過渡期に於ける女のなやみを中心として混亂せるサヴエートロシアの社會相を描いたものである。表題にも明らかな如く、本書は醫師の觀察から生れたもので、二十四の短編いづれも赤裸々な性生活の狀態の描寫である。然も著者が眞理の客觀的軌道より一歩もそれてゐないこと、性問題に對する病的興味といふものが片影だに認められぬと云ふことは注目に値する。

（東京市牛込區市ヶ谷田町三丁目二一番地　世界社　（定價壹圓））

▲犬猫の會話七つ

（コレット著）
（深尾須磨子譯）

これは現佛蘭西女性文壇の統御者コレットの處女作とも稱すべきもの。全編にみなぎる豊かな詩情、鋭い觀察、新しい表現、大人にも、子供にも、動物に關心をもつものにも、持たぬものにも喜ばれること請合のよみものである。

（發行所　世界社　（定價一圓五十錢））

▲妊娠調節の方法

（入交總一郎著）

産兒制限といふことはすでに常識の時代になつた。殘された問題はたゞ信頼すべきどんな實行方法があるか？の教示にある。かうした問題の相談所はこの頃相當に多いのであるが、主に金儲けだけを目的として開業してゐるので、いかがはしいのがある。又、この種の書物は皆〇〇〇が多い。この點、本書の著者入交氏は隨分思切つたところまで親切に書いてゐられるので、各家庭に一册づゝを具へておいていゝと思ふ。新しく結婚する友だちへの贈物にもあつらへ向きであらう。

（麹町區四番町　自由社　（定價壹圓））

▲現代暴露文學選集

神田區表神保町十　天人社
（定價各册三十錢）

新興派プロ文學のエッセンスをすべて含んでゐる全集である。感じのよい装幀でこの廉價！

暴　力…（武田麟太郎）
ある私娼との經驗…（下村千秋）
煙の出る開墾地…（佐々木俊郎）
工場勞働者…（岸藤雪夫）
ある自殺階級者…（淺原六朗）
パルチザン・ウオルコフ（黒島傳治）
炭　坑…（橋本英吉）

資本主義　（定價五十錢）（天人社）

▲社會主義？

共産主義　新居格譯

本を讀め！

▲生活を明るくする法（時事新報社編）（京橋區銀座　文化生活研究會　定價）

▲家庭經濟のすゝめ（定價五十錢）

▲ソヴエト法と婦人の權利（ロシア問題研究所編著）（麹町區麹町四ノ五　婦人問題研究所　定價五十錢）

▲農村協同組合と大都市卸賣市場（麹町區日比谷　東京市政調査會　定價四圓）

▲東京市社會事業批判（右同　東京市政調査會　定價一圓三十錢）

▲問題の子供（エー・エス・ニール著）（霜田靜志譯）

問題の子供、すなはち普通の人の手におへない厄介者―その惡癖や暴行の爲に―がどうして出來たか、著者はそれを、フロイドの精神分析學によつて開かれた新しい心理學的立場から、實際に問題の子供を取り扱つた體驗に基づいて語り、親や敎師の陷り易い誤謬を指摘してゐる。

眞に兒童を愛する敎育者、子供を自らの不注意によつて害なふ事を恐れてゐる父母達に、是非とも一讀をすゝめたい。

（神田區駿河臺北甲賀町二十三　刀江書院發行　定價一圓三十錢）

▼古代社會（上卷）（モルガン原著）（山本琴子譯）

古代社會研究を志す人はモルガンの本書を數へないわけにゆかぬ。それほどに本書は權威のある研究である。古來人類が、發明をし、發見をしながら進步發達して來たあとを悉しく探つてゐるのであるが、又、國家的社會關係についても、人間の歷史が幾變遷をして來たその各段階にわたつて、ゆき亘つた考察をとげてゐる。

本書をよんでわれ〳〵の過去を人類の歷史にみることが出來るばかりでなく、現在われ〳〵がおかれてゐる地位、生活等についても、歷史的な必然の相を理解することが出來る。といふことは、又、將來の社會生活の目標をどこにおいて、われ〳〵は努力してゆかねばならないのか、について正しい認識を與へてくれるのである。

婦人社會問題の研究家は、必ず基礎知識としてこの古代研究書をよんでおく必要があらう。

（神田區表猿樂町二　共生閣　定價一圓五十錢）

×　×　×　×

生田春月君の死を傷む

奥榮一

身を以つて時代の惱みを惱み、身を以つてその惱みを歌ひ、身を以つてその詩に最後のピリオドを打つた、吾が友、生田春月、彼は一九三〇年の日本が生んだ最も代表的な智識階級の一人であつた。彼は一九三〇年の日本が生んだ最も代表的な詩人の一人であつた。

無產階級のイデオロギーに、その安住所を需めんとして需め得ず、戀愛にその惱める魂ひの憩ひを見出さんとして見出し得ず、懷疑を、アフオリズムを、逆說を、反逆を、純情を、愚痴を、勇敢に、大膽に、素直に、生けるがまゝの姿で、一片の白鳥の歌として、歌ひつゞけながら、と翛然して播磨灘に、その惱み多い身を投じた。彼を思ふ時、私は、二十年來の親しき友である私は、玉の如き彼自身に對する純情を、天上の月の如く空しくも懷しさの限りを以て眺める。

詩人でない私、ただ輝ける詩人である彼の古い友であると云ふ誇の中で、私は、世にも貧しい花環として、私の空しい詩を彼の靈の前に捧げる。

生きてある身の辛さをば
埃の上に書いたとて
誰が讀むかよ
君なくて

五月の空を指して
ペットの煙で書いた詩を
誰が見るかよ
君なくて

暗い酒場でうなだれて
こぼれた酒で書いた詩を
誰が知るかよ
君なくて

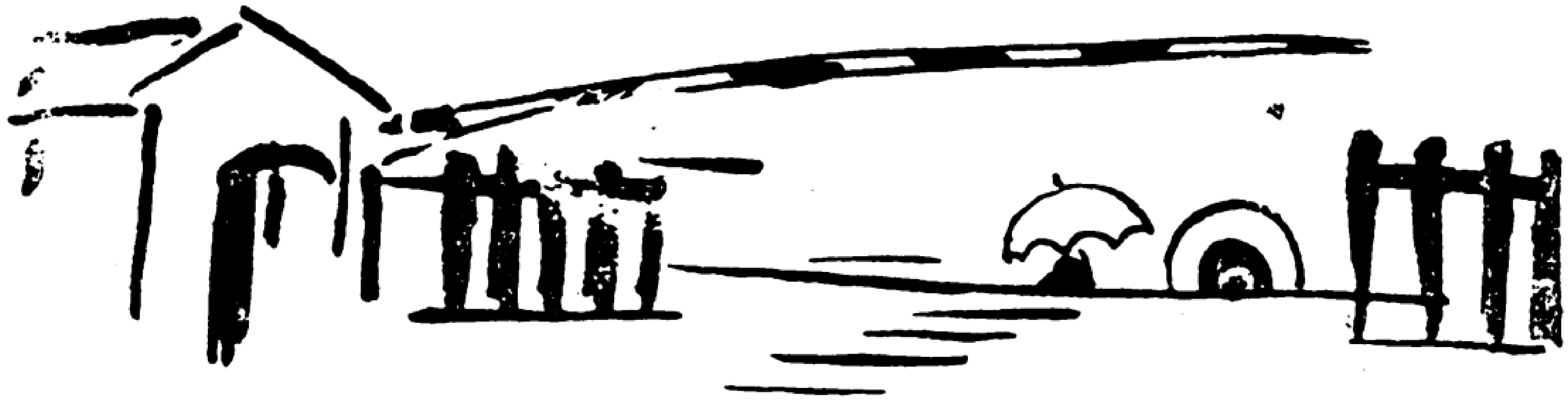
君のない世をどうして送ろ
ひとりで飲んで
ひとりで泣いて
海へ投げよか
俺の詩を

無眼子

生田春月

桃を見る人あり
竹を撃つ人あり
かれもさとり
これもさとる
われは山をみて山をみず
海をみてまた海を見ず
さとりもなく
一生は終る

（遺著「象徵の烏賊」より）



變色した眞珠

樺山千代

お清は、明るい光と、濃厚な色彩の怒濤の中に、一人陸に上げられた魚のやうに佇んでゐた。

桃色の夢が、彼女をのせて、この東京驛のプラットフォームに彼女を置き去りにして行つてしまつたのだ。

お清は、柄の長い洋傘と、小さいバスケットを抱へて、この華やかな流れの中から、一粒の眞珠を探してゐた。眉の濃い紺絣の康雄の姿なのだ。

「あ、清ちやん！」

細い氣取つた眉と、縁なしの眼鏡が、目の前にクローズアップしたかと思ふと、グルりと、ニッカボッカの後姿が、スネークのステッキをはみ出させて歩き出した。お清はドギマギしながら、カラ〳〵と日向下駄を刻んでその後を追つた。

「これにのるんだ」

ステッキの先に止つた市内電車に、お清は黒い足首をむいて乘り込んだ。康雄は、入口近くに立つて居るらしかつたが、お清は、何かまぶしいものゝやうに、振りむく事が

出來なかつた。

　胸許にしづんだ汽車の酔と、電車の動揺に、お清はフラスコのやうにゆすぶられながら、夢と、現實の境をより分けようと焦つた。

　花の都にも、こんな所がかくされてあるのか？　それは、お清にとつて、驚くべき發見であつた。お清は、のび上れば額のとゞくやうな天井の低い、煤けた八百屋の二階に通された。窓には、錆びた看板の裏が空を掩つて、風のまに〳〵、ペコン〳〵と、壞れた玩具の太鼓のやうになつてゐた。

「よく出て來たね」

　康雄は大きく胡座をかいて云つた。

「あたしの意志ぢやなかつたけんど……」

「ぢや、清ちやんは來たくなかつたの？」

「うゝん、來たいには來たかつたけんど、康ちやんには逢たかつたし、東京も見たかつたし。ぢやけんど、お母やんに離れたうなうてのうし」

「それや、無理ないね、清ちやんは甘つたれだから……」

　康雄ははじめて笑つた。

「うそ！　けんど、家があんなに貧乏せざつたら、やつぱりよう出て來んかもしれんてのうし」

「そんなら、やつぱり清ちやんの意志で來たんだらう？　だけど、これからの女性は何時までも親や夫の厄介にならうなんて考へるのは嘘だ。食へる食へないは別にしても、人間はみんな働かなきやならないよ。まあ辛い事もあるだらうが我慢するんだね。僕も出來るだけ面倒はみるよ。ところで、汚ないが、こゝで暫く辛棒しておいで。僕の方の係の給仕がやめたんで、今、清ちやんを頼み込んであるから、大抵きまると思ふんだがね、また、駄目なら、ほかを探してあげるよ」

「おほきに」

　お清は頭を下げた。そして、栗色の膝頭のはみ出してゐる裾を大急ぎでかき合せた。家の前のカーヴで、ギイ〳〵と電車の軋る音が、疲れた彼女の神經を疼かせた。

　お清は康雄が買つて來てくれた安銘仙に、赤いメリンスの帶を〆めて、康雄の勤めてゐる新聞社に通ひはじめた。

　お清は、片手に湯呑の竝んだお盆をもち、片手にその一つを取ると、亂雜な康雄のテーブルの隅に置きながら、パッと鼻の先に碎ける葉卷の煙の中から、康雄の手をみつめた。彼女はその中から、彼の少年時代の日にやけた武骨な手を探さうとした。けれどもそれは出來なかつた。茶が來たか來ないかも氣付かぬやうに、康雄は、俯向いて萬年筆で、小さい框を埋めてゐる。

お清は胸をしめつけるやうな、葉卷と、ポマードの匂をかぎしめて、そこをはなれた。

隣に居る中年の記者は「ありがたう」と云つて、湯呑を受け取つて口に持つて行つた。

お清は湯呑を配り終へると、編輯室の隅の小さい自分のテーブルの前に腰を下ろした。

「お清ちやん、この手紙出して來てね」

衝立のかげからうら若い婦人記者の葉子が出て來て、私用らしい手紙をポンとお清のテーブルの上に投げ出した。そしてそのまゝ、康雄の方へ行つた。

「若尾さん！」

葉子は舌のとけるやうな聲を出して、康雄の背を抱へ込むやうに、椅子の背に白い手をからませた。

「なんだい？」

康雄は體を起してどつかりと後にもたれかゝつた。

「あゝいた！」

葉子は手を引き抜くと、指先を櫻ん坊のやうに塗りつゞめた唇に頰ばつた。

「失敬々々！痛い？」

葉子は答へずに大袈裟に顔をしかめてハア／＼と指先に息を吹きかけた。

「どんなになつた？　どれ？」

康雄は濡れた葉子の指先を手にとつた。その時、葉子はお清の方を見てクスリと笑つた。

「なアんだ、人ばかにして……」

康雄は突つ放した。

「だつて痛かつたわよ」

「ところで御用件をうかゞひませうか」

「工場で、大急ぎですつてさ」

「分つてるよ」

「あんたのだけですつてさ、まだ出ないの」

「うるさいよ」

「ふん！」

葉子は鼻をならして康雄のそばをはなれた。お清はハッとして頼まれた手紙をもつて立ち上つた。

「あら、何ぐづ／＼してんの、早く出して來てちやうだいよ」

投げつけるやうに云ふと葉子はパタ／＼とフエルトの音を衝立のかげに消した。

都會の幸福の洪水に泳ぐ彼女の夢と、今の彼女の現實生活に何の連絡もないやうに、彼女の過去と、現在にも、何の連絡もなかつた。

キラ／＼と鱗のやうなしぶきを浴びて、十四の康雄の背に裸の腹をくすぐられながら、ぐい／＼と金色の波をおしきつ

て行つた十歳のお清であつた。空は深々と藍をたゝへ、長い砂丘には熊蜂が唸つてゐた。

それから、女學校入學準備の若い家庭教師である康雄の待つてゐる前に、ポッチリとふくらみかけた胸を兩手に抱いて、チリケに風邪のお灸をすゑられてゐる、十二歳の彼女であつた。

東京に出た康雄と、十四で別れたお清は、心の小箱から、眞珠のやうに一つ一つ康雄との思ひ出を取り出して眺めた。そして、いつか彼との戀の眞珠の塔を築いてしまつた。

父が死に、家が傾いて康雄を頼つて上京したお清は十七になつてゐた。

引き歪んだ人生の姿をプリズムで漉して、それを無數に複寫して、これが人の世の姿でございとばかり、讀者を瞞著することを渡世としてゐる康雄はジャーナリストだつた。彼の心も姿もまたプリズムだつた。

幾度、取り出してみても、彼女の心の眞珠は過去の姿のまゝであつた。そこには、現在の康雄と何の連絡も見出せなかつた。けれども、觀念が、彼女に、現在の彼に對して「あの康ちやん」からの戀をおつかぶせてしまつた。そして、彼女はプリズムのやうな不思議な幻覺のうちに彼を戀しつゞけてゐた。

「あの頃は樂しかつたね、あの甘つたれやが、よくかうして自活して行くと思つて」

「お母やんも、それを思ふと涙がこぼれるつて云つて來たぞね」

「さうだらう。ほんとにやんちやだつたものね。よく、二人で手品をしたり、芝居をしたりしたねえ。なんだか大きくなつた清ちやんと、かうして居るのが不思議で仕樣がない」

「あたしぢやつてさうぢやわ、だつて、康ちやんが、なんぢやか、あんまり變つちよつて、あの頃の康ちやんでないやうな氣が時々するぞね」

「いやだね、清ちやんは……。で、あの頃の康ちやんの方が好きだつていふんだらう？」

「さうぢやないけんど……」

「ぢや、清ちやんは、今の僕を戀してゐる？」

ヅバリとお清の心臟を突き刺すやうに云つた。お清は眞赤になつて顔を伏せた。

「僕もだよ。清ちやん！」

康雄はお清の手を摑んだ。お清はわなゝきながらじつと康雄の眸をみつめた。康雄はすぐ歸つて行つたが、お清は、煮〆めたやうな部屋に、コチンと坐つて何時までも、何時までも、彼の言葉と姿を心で追つてゐた。眉の細い康雄の顔はいつか、色黒の男らしい昔の康ちやんの顔に置きかへられてゐた。

「お清ちゃん!」

お清は眠からとび起きた。電燈に掩つてあつたタオルがバサリと落ちて、汚ない部屋に入道のやうなお清の影が左右に揺れた。彼女はドキ〳〵しながら聞耳をたてた。

「僕だよ、お清ちゃん」

ハツとしてお清は窓を明けて屋根の看板のわきから晒し首のやうに顔を突き出した。二筋の水のやうに月を宿して流れるレールを背に康雄が立つてゐた。

「今あけるわ、裏へまはつてつかされね」

彼女は動悸がおさまらなかつた。

康雄は上つて來た。

「どうしたの、今頃?」

「やつて來たのさ」

「けんど、あんまりおそいんぢやもの」

「いけないのかい?」

濁つた目にお清をみすゑた。ツンと彼女の鼻に酒の匂がしみた。

「さうぢやないけんど……」

「ないけんど何だい」

「こはいわ、なんぢやか」

「ばか! 康ちゃんだよ、そら」

康雄は火照つた顔をつきつけた。

「いやん」

お清は臭い彼の口に蓋をして押し返した。

「そんなに嫌はなくつたつていゝだらう? ところでお清ちやんは山本葉子を知つてるかい」

「知つちよるかつて、毎日、社で逢つちよるぢやないかね」

「あれがねえ」

彼は暫らく默つた。云はうとする事の反響を効果的にするために。

「どうしたぞね」

「僕を戀してるんだよう」

お清は打たれたやうに息をつめた。

「で、僕はといふのかい? それや、少しは、いや少しも、だが、遊戯的に少しかな」

彼はゴロリとお清の蒲團の上にねそべつた。お清は、ぐつと熱いものをのみ込んだ。

「僕、もう下宿へは歸らない」

「どうして?」

「死ぬつもりだ」

「死ぬる? 死ぬる? いや、いや、死んぢやいや!死んぢやいや!」

お清は突然泣き伏した。

「一緒に死んでくれるかい？」
「……」
彼は一分も彼女の答へを待たなかつた。
「それごらん、それごらん、どこが僕を愛してるんだ、それごらん！」
康雄は立ち上つたかと思ふとお清の體をつきとばした。獅子のやうにお清をつねり上げた。髪をむしつた。お清は擘を殺して泣きながら兎のやうに藻掻いた。
「この薄情者！」
一息入れた康雄は、さう叫んで、もう一ぺんお清の腕を捩り上げようとしたが、ふとやめて、その力でお清の體をせい一つぱい抱きしめた。
「葉子さんは僕を愛してくれるのに、お清ちやんは愛してくれないね。さうだらう？　え？　さうだらう？　さうでなければ……」
といつて、康雄は無抵抗になつたお清の體を捩ち伏せた。
始發の電車がキーゴーと通りすぎた。康雄は斬り棄てられたやうに眠つてゐた。
水色の光が看板のわきからすりぬけて黄色い電燈の光にからまつた。ぽつかりと電燈が消えた。部屋の中は急に青ざめて薄汚れた。
「ねたかいお清ちやん」
康雄が目をさまして云つた。
「何を考へこんでるの？　ねやうよ」
「私なんぢやか、死にたうなつた」
「ばかな、僕？　死ぬのはいやだ、まだしたい仕事がどつさりあるよ」
康雄はまた眠つた。時間が來ると康雄は起きて出勤の仕度をした。
「おくれないでおいで、社をしくじらない方がいゝぜ、失業者の洪水だからね。ほかにやありやしないよ。ぢや、また來るよ」
お清は答へず歸つて行く康雄の、襦子足袋と裾との間にすいた黄色い足をじつと見送つた。胸の底に壓搾されたものがムカ〳〵と螺旋形に咽につき上げて來た。彼女は黄色い液を吐いた。
「死にたい」
お清はしみじみと思つた。と、ふと「涙がこぼれます」といふ母の手紙が心をかすめた。彼女はふるひ立つやうに立ち上つた。そして膝を正して坐つた。
「戰はう、あの男と……。そして、たつた一人で生活戰線に立たう」
彼女は蜜柑箱の上の小さい隋圓形の鏡にむかつて髪を結ひはじめた。

巻末に

おひ〳〵とよい雜誌が出來相で喜んでゐます。よく育てゝ下さる協力者が出來たからです。

大石さんも西野さんも、高給な職業婦人だつたのに好んで職業婦人社の貧乏世帶に飛び込んで來られたのですが、それ〳〵研究目的をもつてゐられるので自分の研究をすゝめつゝ一方、婦人運動の實際にも深入りしたいと云つてゐられます。

私も、これで仕事の上に大分おちつきをえましたから、成るべく澤山のお友だちとお親しくする樣出來るだけ出歩きたいと希ふ一方、廣い意味での婦人運動を進めてゆくとについて、婦人として、自分自身よく内省し、讀書してよい原稿を書くやう、よい案を生み出してゆくことが出來るやう勉强してゆきたいと思つてゐます。

「職業婦人の家」のための募金も今年ぢうの私の大きな責任です。私は早く熱しない代り、やり出した仕事は氣永に必ずやつて拔ける牛のやうなねばり强さを持つてゐる自信があるのですが、平生忙しすぎる、とは云ひながら、一年あまりも投げ出してゐた事を心で詫びてゐます。

この頃の新聞記事は、二面でも三面でも、社會狀態が隨分ゆきづまつてゐることを報じてゐます。ぜいたくや、夢のやうにその日ぐらしをしてゐる生活を恥ぢねばならぬと思ひます。つねに社會連帶の氣持で、住みよい社會を建設するため力をあはせたいと思ひます。殊に、女の立場で私は一層さう思ふのです。女は、從來、あまり自分一個の問題に熱しすぎて來たから、これからも、もつと〳〵社會にふれ、社會を知ると同時と、社會全體の上に責任の一半を負ふだけにならねばいけないと思ふのです。

出版書肆の新刊物がどん〳〵寄贈されて來てゐます。本をよめ！とは、私たちの衷心の叫びです。どうぞ、事務所にある新刊書をどし〳〵味讀して下さい。

今月は消費組合に關する記事を多く集めました。此頃消費組合婦人運動に熱心な方が澤山できたことを私はいつもうれしく思つてゐるのですが、出來るだけ各方面の方から執筆していただきたかつたのですが、お願ひしたお方で、まにあはなかつたのもあり、多忙にまぎれてお願みできないでしまつた向きも多く、殘念です。（奥）

讀者をふやして下さい

廣告力をもたないうちの雜誌のやうなものは、内容がどんなによくても、今の資本家主義社會では店頭の商品にならない。

だから讀者から讀者へ！みなさんのお助力に依つて直接にすゝめて下さつて、讀者として協力者をふやすより外ないのです。新しい仲間よ、殖えよ！

讀者をふやして下さい

○

「出て來て三ヶ月にもなるといふのに、そんな地圖持つてゐる樣ぢやいけませんね」同じ越後の出身だといふ某氏に言はれてすつかりしよげてしまつた私は、だまつてにがつぽく笑ひました。すべてをかうした調子で行く私は、席のあたゝまる間もない程、お忙しい奥さんのお手が、少しでも省ける樣にとは願つてゐますけれど、自分ながら心許ないお手傳ひ振りであることを思つて、恐縮して居ります。小氣味のよい程テキパキした大石さんにはげまされながら、とにかく歩いて來た一月を、ホツとしながら振り返つて見ます。

とにかくかうして一册にとり纒める苦心の、實に一通りでない事を目撃して居り、學校へ通ふ片手間では、何程の事も出來ない私としては、只お二人の苦心を通して雑誌を見、お二人の勞を犒ひたい氣持で一杯です。

立派だな！私は心から言ひ度い氣がします。そして同じ言葉を讀者の皆樣からも聞き度い氣持でゐます。さらなる爲に、皆樣の御支持を願つてやみません。

じめ／＼した日が續きます。重い責任の故に緊張してゐる私共は、幸に三人ながら元氣でゐます。そして皆樣の御健康を祈つてゐます。（西野）

○

今月は原稿がほんとによく集りました。皆樣が非常に氣持よく書いて下すつたからです。讀者の方々からも澤山感想をおくつて下すつた。お目にかゝる機會あるごとに、表紙について、編輯について、いろ／＼教へて下さる方もある。ほんとに何といふよい支持者を「婦人運動」はもつてゐるのでせう。

これにおこたへするためにでも、もつともつと努力して立派な雑誌にしたいと思ひます。

最後に、せつかく原稿をいたゞきながら、誌面の都合でのせられなかつたり、是非にとお願ひしながら、締切後になつたために、來月にまはさせていたゞいたのがずいぶんある。かいて下すつた方々には勿論、讀者の方々にもまことに相すまないと思ひます。こゝに心からおわびを申し上げます。（大石）

讀者會をしませう

奥氏が地方講演に出かけるついで／＼を探して讀者會を開いて下さい。

未だ讀者でない方でも、婦人問題、社會問題に興味をもつてお出ての方々を誘つて、一人でも澤山の方が、奥氏を中心にして懇談する機會を作つてほしいご思ひます。多少は廻り道をしておたづねしてもよいご申してをられますから豫め申込んでおいて下さい。

讀者會をしませう

昭和五年六月三十日納本
昭和五年七月一日發行

◇誌代はすべて前納にして下さい

誌代
壹部 貳拾錢（郵税一錢）
半年分 壹圓二十錢
壹年分 貳圓二十錢

編輯發行兼印刷人 奥梅尾

東京市牛込區本村町四
職業婦人社
振替東京六四二六〇番

婦人消費組合協會總會！

來る七月第一土曜日國際消費組合デーに、私どもの婦人消費組合協會の第二回總會をいたします。どうぞお集り下さい。

第二回總會順序

一、開會の辭……………前田つぎ

一、議長と書記決定…………

一、本部報告…………（平田ノブ／竹内華子）

一、各地方報告…………

西郊消費組合家庭會（丸岡秀子）
牛込婦人會……（小島幾惠）
東京共働社家庭會……（西野いく）
家庭購買組合家庭會
成城學園消費組合……（神こと子）
江東消費組合家庭會（平田ノブ）
共働消費組合家庭會（田中かつ）
共同會婦人部……（小島幾惠）
立石消費組合……
蒲田消費組合……（吉村小芳）
秋田消費組合家庭會
神戸消費組合家庭會
高知共働社家庭會
金澤善進婦人會
群馬强戸消費組合家庭會
長野市高嶺購買組合家庭會
埼玉縣産業組合婦人協會
上田市松尾購買組合家庭會

一、祝辭

關東消費組合聯盟　岡本利吉
産業組合中央會　千石興太郎
東京産業組合支會　橋本律二
大阪消費組合協會　賀川豐彦

一、祝電披露…………

一、宣言綱領の決定…………

一、協議…………

イ、會費改正の件……吉村小芳

ロ、專任有給書記採用の件　平田ノブ

ハ、各地消費組合に婦人の活動を慫慂する件　神こと子

ニ、學用品消費組合の必要を社會に徹底せしむる件　小島幾惠

ホ、母子扶助法の制定を要求する件……宮本千技

ヘ、公設産兒制限相談所の設置を要求する件　廣瀬すみえ

ト、消費税の撤廢を要求する件……大石みづほ

一、閉會の辭…………前田つぎ子

一、全員茶話會…………司會者　奧むめを

會場　牛込區カグラ坂下
　　　産業組合中央會階上廣間

時日　七月五日
　　　午後正一時より
（當日入會を申こむことも出來ます）

—當日の催し—

★産兒制限のための器具と藥品の展覽（入場料十錢）

★東京市内外に在る消費組合の分布圖

ラルスキイ著・西谷雅義譯・村山知義裝

ソヴエート女醫の手記

四六判二七〇頁
定價金壹圓

最新刊

革命の產んだ性生活の曝露！婦人科女醫の赤裸な記錄文學はこれだ！『本書持參人の處女性を御診察下さい。もしもそれが失はれてゐればどういふ方法でそれが失はれたかを何卒正確に御教示下さい』といつた手紙持參の婦人患者から話は始まる。

革命は性生活の領野に多くの簡明と單純を持たらした。でも幾多の傳統、葛藤が遺存跳梁しつゝあることを指示する實話小說！

東京市牛込區市ヶ谷田町

世界社

振替東京七五一五八
電話牛込五八六八

婦人戰線

戰闘・無産婦人藝術聯盟・雜誌



▼全國婦人烽起せよ!! 見よ強權否定! 男性清算! 女性新生! の三大旗標!! 無産婦人解放の第一線!!

▼直ちに無産婦人藝術聯盟に加はれ!! 而して斷乎として婦戰の旗を押進めよ!!

一 われらは強權主義を排し自治社會の實現を期す。 **強權否定!**

二 われらは男性專制の日常的事實の曝露清算を以て一般婦人を社會的自覺にまで機縁するための現實的戰術とする。 **男性清算!**

三 われらは新文化建設および新社會展開のために女性の立場より新思想新問題を提出する義務を感ずる。 **女性新生!**

(既刊特輯)

- 創刊宣言號
- 家庭否定號
- 戰闘小說號
- ブルマルル男をうつ號
- 性の處理號

—續いて次々に戰闘的な特輯號を出していきます、

(五千部印刷)

定價

一部二十錢 税一錢
半年一圓十錢 税とも
一年二圓十錢 税とも
見本切手二十一錢

×聯盟加入は誰でも自由です、

×讀者五名以上の所では支部をつくることができます。

×投稿は讀者でも聯盟員でも自由です。

×お照會には必ず返信料をそへて下さい。

發行所 東京・上荻窪二六九 振替東京四六八三三 婦人戰線社


国産ミルクの普及
MORINAGA'S
CONDENSED MILK
TRADE MARK
森永ミルク
M
MORINAGA CONDENSED MILK CO. LTD.

大正十三年十一月二十二日 第三種郵便物認可
昭和五年六月三十日 印刷納本
昭和五年七月一日發行（毎月一回・一日發行）

婦人運動

第八卷 第六號

定價廿錢